

平成 24 年度

建設業の雇用実態に関する アンケート調査報告書

平成 25 年 2 月

(社)富山県建設業協会

目次

第Ⅰ章 調査の概要	2
1. 調査の目的	2
2. 調査の対象	2
3. 調査の実施期間	2
4. 調査の項目	2
5. 調査票の方法	3
6. 回収の結果	3
第Ⅱ章 社団法人富山県建設業協会会員企業へのアンケート	4
1. 調査結果	4
2. まとめ	11
第Ⅲ章 若手(10代～30代)技術職・技能職へのアンケート	12
1. 調査結果	12
2. まとめ	23
第Ⅳ章 富山県立高校建設系学科の高校生へのアンケート	24
1. 調査結果	24
2. まとめ	31

第 I 章 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、建設業の雇用の実態を調査することで、建設業界の雇用を改善することや若手技術職が入職し定着するための方策を検討するための基礎資料とすることを目的とします。

2. 調査の対象

- (1) 社団法人富山県建設業協会の会員企業 603 社
- (2) (1) の調査に回答した企業の 10 代～30 代 (40 歳未満) の技術職・技能職 1,657 名
- (3) 富山県立高校建設系学科の生徒 (1 年生～3 年生)
 - ・桜井高校土木科
 - ・富山工業高校土木工学科・建築工学科
 - ・高岡工芸高校土木環境科・建築科
 - ・南砺福野高校農業環境科

3. 調査の実施期間

平成 24 年 8 月 20 日～平成 24 年 11 月 22 月

4. 調査の項目

- (1) 会員企業
 - ①調査対象企業の従業員数
 - ②技術職・技能職の採用状況
 - ③雇用維持の状況
 - ④社会保険の加入状況
- (2) 若手(10 代～30 代)技術職・技能職
 - ①調査対象者の基本事項
 - ②職場に関すること
 - ③残業時間・休暇に関すること
 - ④転職に関すること
 - ⑤建設業界に関すること
- (3) 富山県立高校建設系学科の生徒
 - ①入学の理由について
 - ②建設業に対する意識調査
 - ③卒業後の進路について

5. 調査票の方法

(1) 会員企業

調査対象企業に対し調査票を郵送し、対象企業から郵送で直接回収した。

(2) 技術職・技能職

所属する企業を経由して調査対象者に調査票を郵送し、対象者から郵送で直接回収した。

(3) 建設系学科の生徒

各高校の担任教師を通して、調査票を配付し回収した。

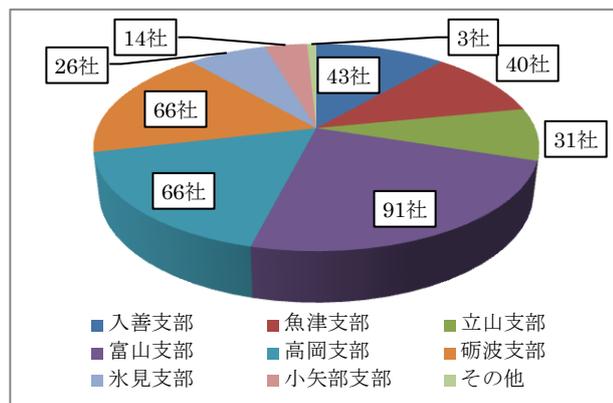
6. 回収の結果

(1) 会員企業

調査票は、603社に配布し、380社から回収した。回収率は、63.0%である。

支部別の回収状況

支部名	回収数	会員数	率
入善支部	43	69	62.3%
魚津支部	40	60	66.7%
立山支部	31	57	54.4%
富山支部	91	153	59.5%
高岡支部	66	114	57.9%
砺波支部	66	87	75.9%
氷見支部	26	38	68.4%
小矢部支部	14	25	56.0%
その他	3	-	-
計	380	603	63.0%

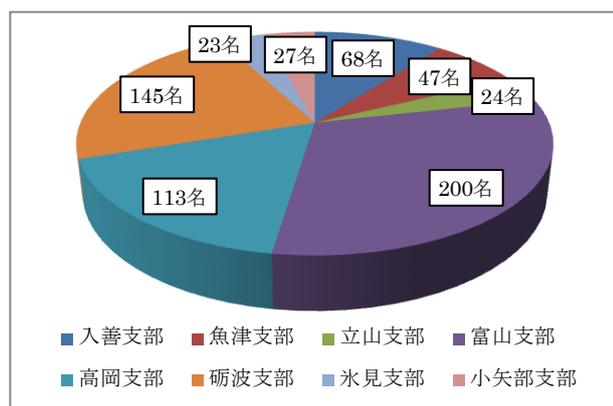


(2) 技術職・技能職

調査票は、1657名に配布し、647名から回収した。回収率は、39.0%である。

支部別の回収状況

支部名	技術・技能職(人)		
	回収	発送	回収率
入善支部	68	189	36.0%
魚津支部	47	132	35.6%
立山支部	24	73	32.9%
富山支部	200	454	44.1%
高岡支部	113	323	35.0%
砺波支部	145	377	38.5%
氷見支部	23	61	37.7%
小矢部支部	27	48	56.3%
計	647	1657	39.0%



(3) 建設系学科の生徒

調査票は、4校6学科の生徒へ配布し、回答数は582名だった。

学科別・性別回収状況

学科・コース	土木系			建築系			総計
	男	女	合計	男	女	合計	
人数	323	31	354	161	67	228	582

第Ⅱ章 社団法人富山県建設業協会会員企業へのアンケート

1. 調査結果

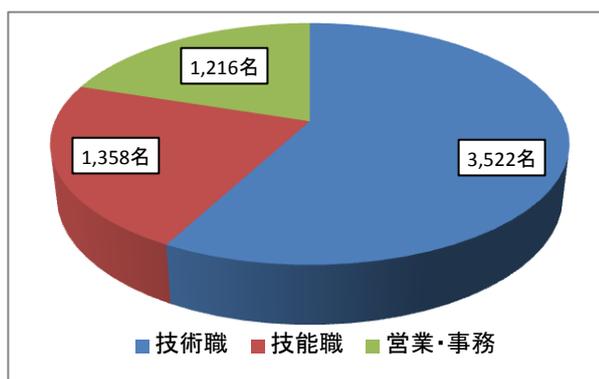
設問1 従業員数（有効回答数 380社）

性別	年代	技術職	技能職	営業 事務	技術 技能計	年代別 計	構成比
男性	10歳代	14名	21名	0名	35名	35名	0.7%
	20歳代	217名	143名	24名	360名	384名	7.4%
	30歳代	910名	270名	76名	1,180名	1,256名	24.2%
	40歳代	820名	245名	124名	1,065名	1,189名	22.9%
	50歳代	900名	303名	138名	1,203名	1,341名	25.8%
	60歳代以上	509名	332名	149名	841名	990名	19.1%
	計	3,370名	1,314名	511名	4,684名	5,195名	100.0%
女性	10歳代	2名	0名	1名	2名	3名	0.3%
	20歳代	17名	1名	56名	18名	74名	8.2%
	30歳代	53名	14名	160名	67名	227名	25.2%
	40歳代	28名	7名	218名	35名	253名	28.1%
	50歳代	32名	8名	191名	40名	231名	25.6%
	60歳代以上	20名	14名	79名	34名	113名	12.5%
	計	152名	44名	705名	196名	901名	100.0%
男女	10歳代	16名	21名	1名	37名	38名	0.6%
	20歳代	234名	144名	80名	378名	458名	7.5%
	30歳代	963名	284名	236名	1,247名	1,483名	24.3%
	40歳代	848名	252名	342名	1,100名	1,442名	23.7%
	50歳代	932名	311名	329名	1,243名	1,572名	25.8%
	60歳代以上	529名	346名	228名	875名	1,103名	18.1%
	計	3,522名	1,358名	1,216名	4,880名	6,096名	100.0%
構成比		57.8%	22.3%	19.9%	80.1%	100.0%	

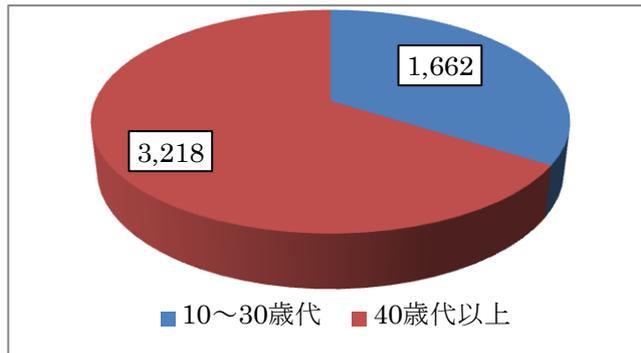
回答があった会員企業 380 社の従業員数は 6,096 名で、職種別では技術職が 3,522 名（57.8%）と、従業員の中で最も多い職種になる。

以下、技能職が 1,358 名（22.3%）、営業・事務職が 1,216 名（19.9%）となっている。技術職と技能職を合わせると 4,880 名となり、従業員の 8 割を占めている。なお、1 社当たりの技術職・技能職の平均人数は 12.8 名となっている。

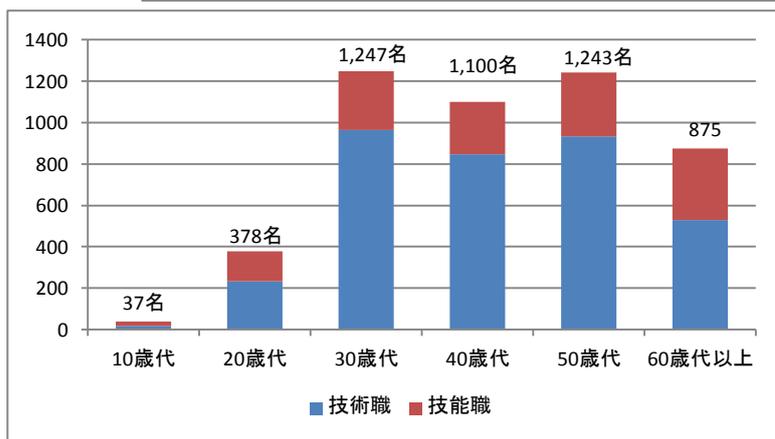
男女別で見ると、技術職・技能職の男性は 4,684 名、女性は 196 名となり、女性の技術職・技能職は男性の 4.1%と少なく、特に女性の技能職については 44 名と 1%以下となっている。事務・営業職では、男性が 511 名、女性が 705 名となり、女性が男性を 38.0%上回っている。技術系は男性、事務系は女性という構図となっている。



技術職・技能職を10代～30代(40歳未満)と40歳以上で区分して見ると、10代～30代が1,662名(34.1%)、40代以上が3,218名(65.9%)となり、10代～30代が40歳代以上の約半数となっている。



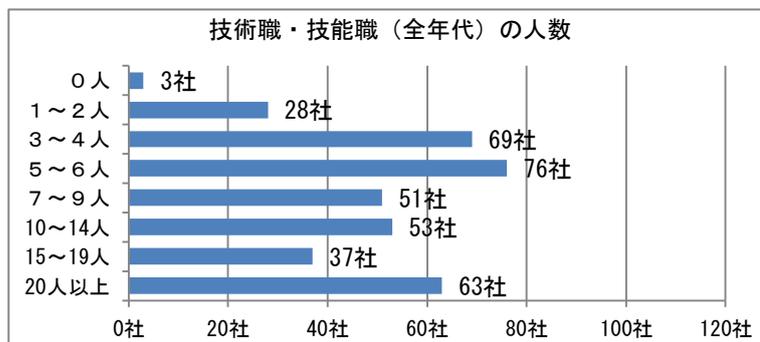
技術職と技能職を年代別に見ると、最も多いのが30歳代の1,247名(25.5%)、次いで50歳代の1,243名(25.5%)、40歳代が1,100名(22.5%)となっている。



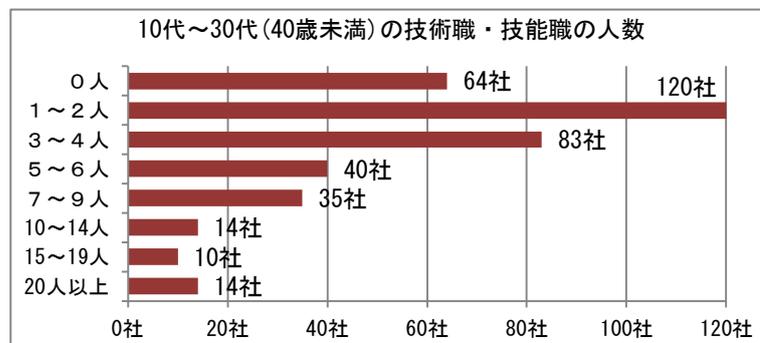
年代別で1000名を超えているのは30歳代から50歳代であり、合計すると3,590名で全体の7割強となる。

20歳代は378名であり30歳代と比較すると3分の1、60歳代と比較しても半数以下となっている。20歳代が30歳代以上と比較して極端に少ない理由として、新卒採用数の減少や新卒で建設業に入職を希望する学生が減少していることが影響していると思われる。

また、各企業の技術職・技能職の人数を見ると、5～6人が最も多く76社(20%)、次いで3～4人が69社(18.2%)と続く。10人未満と回答した企業を合計すると約60%となり過半数を占める。なお、役員が技術職・技能職を兼務しているため0人と回答した企業は3社だった。



各企業の10代～30代(40歳未満)の技術職・技能職の人数では、1～2人という企業が最も多く120社(31%)次いで3～4人が83社(21.8%)、0名が64社(16.8%)と続き、5人未満と回答した企業を合計すると267社で7割を占める。また、10人未満での回答を合計すると9割を占める。



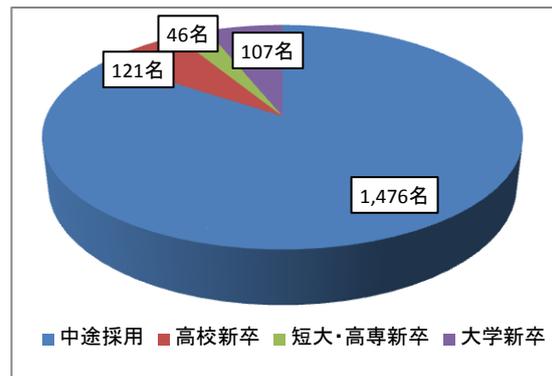
技術職・技能職の高齢化が進んでおり、これからの時代を担う若い人材が十分に雇用できていない企業が多いことがうかがえ、若年者の確保と育成は喫緊の課題であると言える。

設問2 過去5年間（平成19年4月以降）の採用状況（有効回答数380社）

平成19年4月以降の採用状況を見ると、「採用あり」が299社（78.7%）で、8割近い企業が採用している。

採用有無	企業数	構成比
①採用あり	299社	78.7%
②採用なし	80社	21.1%
回答なし	1社	0.3%
計	380社	100.0%

次に「採用あり」と回答した企業の採用者1,750名の内訳を見ると、中途採用が1,476名（84.3%）と最も多く、高校新卒が121名（6.9%）、大学新卒が107名（6.1%）となっている。採用者のうち、技術職では中途採用が629名（79.2%）、技能職では576名（89.0%）と、新卒者の採用よりも中途採用の方が明らかに多くなっている。



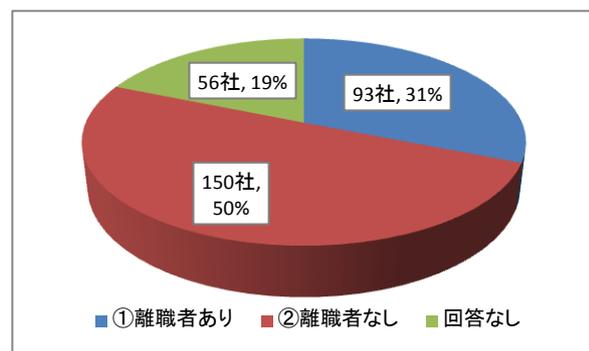
採用する建設企業としては、新卒者を採用して仕事を一から教育していく余裕がなくなっていることが考えられる。

	中途採用	高校新卒	短・高専新卒	大学新卒	計
技術職	629名	62名	23名	80名	794名
技能職	576名	53名	13名	5名	647名
営業・事務職	271名	6名	10名	22名	309名
計	1476名	121名	46名	107名	1750名
構成比	84.3%	6.9%	2.6%	6.1%	100.0%

設問3 過去5年間（平成19年4月以降）の採用後3年以内の離職状況（有効回答数299社）

設問2で「採用あり」とした企業の中で採用後3年以内の離職状況を見ると、「離職者あり」とした企業が93社（31.1%）となっており、採用企業の3社に1社で採用から3年以内に離職者が出ていることになる。

なお、離職者の内訳を見ると、技術職107名、技能職148名であり、技能職が多くなっている。



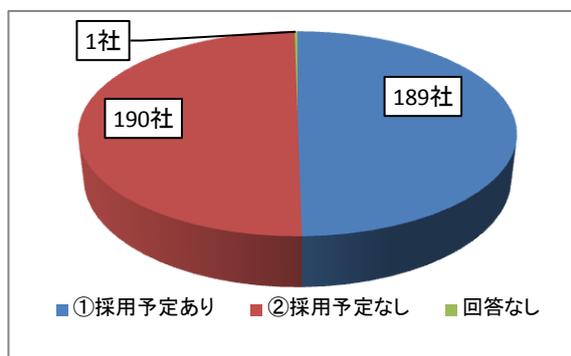
設問4 平成25年4月以降の採用予定（有効回答数380社）

平成25年4月以降の技術職・技能職の採用予定は、189社が「採用予定あり」として

いる。「採用予定あり」の内訳を見ると、技術職が298名(63.4%)、技能職が172名(36.6%)と、技術職の採用予定が多くなっている。

採用対象者では、中途採用が296名(63.0%)と最も多くなっており、次いで、高校新卒81名(17.2%)、大学新卒64名(13.6%)となっている。

今後の採用予定においても、過去5年間の採用状況と同様に中途採用が多くなっており、即戦力となる技術職の採用を希望している企業が多い。

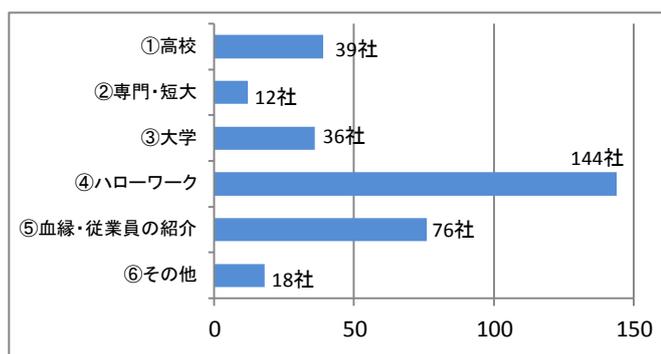


	中途採用	高校新卒	短大・高専新卒	大学新卒	計	構成比
技術職	168名	50名	23名	57名	298名	63.4%
技能職	128名	31名	6名	7名	172名	36.6%
計	296名	81名	29名	64名	470名	100.0%
構成比	63.0%	17.2%	6.2%	13.6%	100.0%	

設問5 技術職・技能職の求人先（2つまで）（有効回答数189社）

設問4で「採用予定あり」と回答した企業189社の求人先は、「ハローワーク」が144社(76.2%)と最も多く、次いで「血縁・従業員の紹介」76社(40.2%)、「高校」39社(20.6%)、「大学」36社(19.0%)となっている。高校や大学への求人よりもハローワークや血縁・従業員の紹介が多くなっているのは、中途採用を希望している企業が多いことを反映していると考えられる。

選択肢	回答数	割合
①高校	39	20.6%
②専門・短大	12	6.3%
③大学	36	19.0%
④ハローワーク	144	76.2%
⑤血縁・従業員の紹介	76	40.2%
⑥その他	18	9.5%
計	325	-



なお、「その他」の具体的内容では、知人・取引先からの紹介が7社と多くっており、「血縁・従業員の紹介」と合わせると83社(43.9%)となる。

その他具体的内容	
知人・取引先からの紹介	7社
求人誌・新聞広告	3社
就職情報会社(リクルート・IBAC)	3社
ホームページ内エントリー	1社
県Uターン希望者	1社

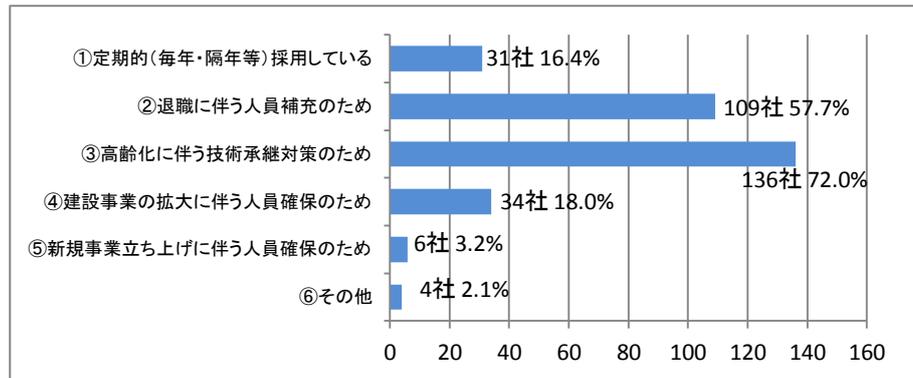
設問6 技術職・技能職の採用を予定している理由（2つまで）（有効回答数 189社）

設問4で「採用予定あり」と回答した企業189社に採用を予定している理由をきいたところ、「高齢化に伴う技術承継対策」が136社（72.0%）と最も多く、「退職に伴う人員の補充」が109社（57.7%）となっている。多くの企業で高齢化を問題視しており、現在企業が持っている技術

力を継承し維持するために採用を行なっていることがわかる。

一方、「定期的に（毎年・隔年等）採用している」が31社（16.4%）、「建設事業の拡大に伴う人員確保のため」

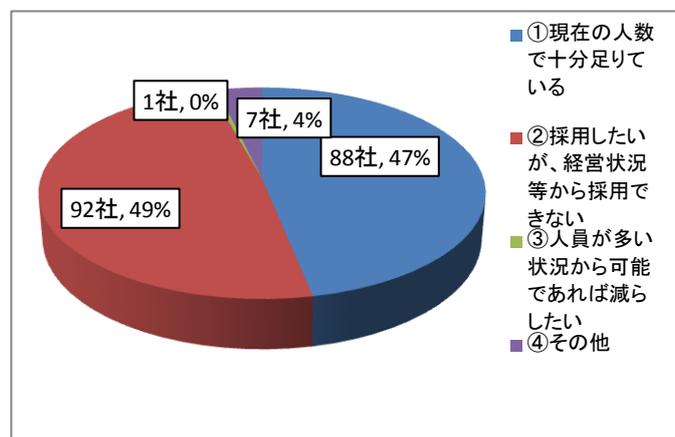
が34社（18.0%）となり、その他の多くの企業では現状の人員数を維持するために採用を行なっていることがわかる。



設問7 技術職・技能職を採用する計画がない理由（有効回答数 189社）

設問4で「採用予定なし」と回答した企業190社の採用する計画がない理由は、「採用したいが経営状況から採用できない」が92社（49%）と最も多く、半数の企業は現在の経営状況では採用したくてもできないという厳しい現状が表れている。

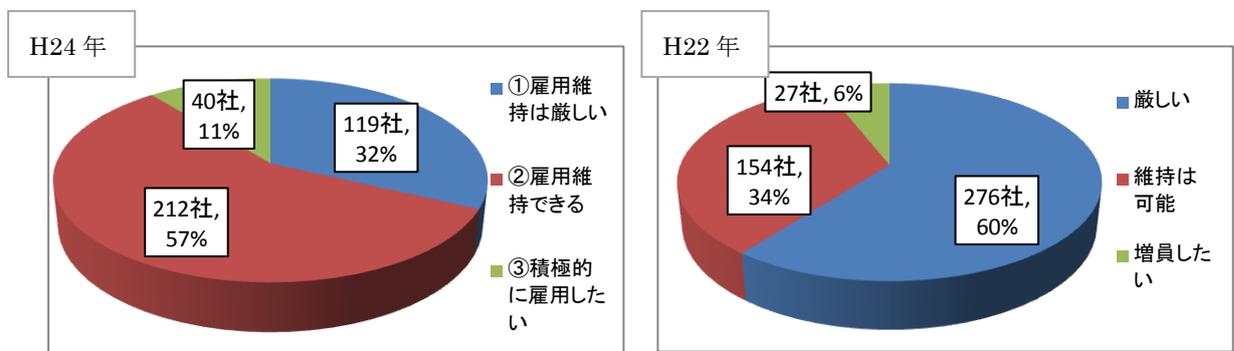
一方で、「現在の人数で十分足りている」が88社（47%）となっており、「採用したいが経営状況から採用できない」と同程度となっている。



設問8 従業員の雇用維持

従業員の雇用維持については、「雇用維持できる」が212社（57%）、「積極的に雇用したい」が40社（11%）となっている。

一方、「雇用維持は厳しい」は32%で、平成22年に実施した「富山県建設業の実態に関するアンケート調査」では「雇用維持は厳しい」が60%であった。今回の調査では厳しいと回答した企業の割合が大きく減少しているが、これは各企業が年々縮小してきた建設市場に適応するため、各企業が現在の経営状況下で人員を維持できるような対応（採用の抑制やリストラを含めた経費削減や経営改善）を行ってきたことが理由であると考えられる。



設問9 社会保険等の加入状況（有効回答数 380社）

会員企業の社会保険の加入状況を見ると、雇用保険では375社（98.7%）、厚生年金保険では369社（97.1%）、健康保険では370社（97.4%）が加入している。未加入企業は、雇用保険が3社、厚生年金保険が9社、健康保険が7社となっているが、それぞれの加入義務の有無を見ると、加入義務ありの企業が厚生年金保険で4社、健康保険で3社となっている。

	加入企業	未加入企業	回答なし	加入率
雇用保険	375社	3社	2社	98.7%
厚生年金保険	369社	9社	2社	97.1%
健康保険	370社	7社	3社	97.4%

	未加入企業	加入義務なし	加入義務あり	回答なし
雇用保険	3社	3社	-	-
厚生年金保険	9社	3社	4社	2社
健康保険	7社	3社	3社	1社

なお、社会保険等への加入が任意となる条件は次のとおりである。

【社会保険加入が任意となる事業所】

雇用保険：労働者を一人も雇用していない事業所

厚生年金保険：従業員が常時5人未満の個人事業主

健康保険：従業員が常時5人未満の個人事業主

設問 10 「社会保険未加入問題への対策」に対する意見（抜粋）

社会保険未加入問題対策への意見では、対策は必要であるという意見と今回の対策では根本的な解決にはならないという意見が多かった。

具体的内容については次のとおりである。

1. 社会保険未加入への対策は必要である。	
	・社会保険に未加入なのは主に下請専門工事業者で、彼らが加入することにより建設産業のイメージアップになると思う。しかし、これにより建設産業の衰退を食い止められるとは考えられない。
	・まだまだ社会保険に加入していない業種もあり、義務化が必要。
	・さらなる罰則規定の設定・強化（入札参加資格等）が必要。
	・対策が実施されれば COST 面に反映されることに期待しますが、しばらくはガマンだと思う。
	・未だに未加入の企業が存在していることが残念。不適格業者の排除、公共事業のイメージアップを兼ねて早急に行うべき対策。
	・社会保険未加入者を無くしていく事は非常に良いことではあるが、建築工事等に多い一人親方へのサポートも必要。社会保険加入特例制度を充実させ、一人親方の方にも加入できる環境を作っていただきたい。
2. 社会保険未加入問題の根本的な解決にはならない。	
	・未加入の原因の一つとして、設計単価の下落や下請等に対する締め付けがあります。経審での審査や罰則だけではなく、根本的な原因を見直す必要があるのではないのでしょうか。
	・経営事項審査において確認する労働者は、申請時の技術職員名簿に基づく労働者だけでよいのか。雇用する全従業員の名簿を提出させ、それらについて確認するべきだと思う。
	・作業員単価の勘案が前提と考えます。
	・社会保険未加入問題は、社会保険への不信感と労務賃金の低下に大きな原因があると考えます。
	・公共工事を受注しない業者は経営事項審査を受ける必要がなく、今回の措置に直接的には影響を受けないと思います。一方、元請下請兼業の業者にとっては、価格競争力の相対的な低下を招く恐れがあります。社会保険未加入の業者には下請負をさせない等の対策を講じない限り、効果は期待できないと考えます。
	・未加入企業に対する経営事項審査の評価が厳しくなり、許可申請に保険加入状況の記載した書面が必要になると聞いていますが、保険に加入していない業者には許可を交付しない等の厳しい対策が必要と思われる。
3. 社会保険未加入の対策には、工事量や発注単価の向上が必要である。	
	・建設業において国土交通省他発注機関の発注単価の向上が社会保険未加入問題を防ぐ第一の方法であると思う。
	・仕事量が年々減少している中、無意味だと思えます。お役所仕事に憤りを感じます。
	・工事発注の減少から見通しが定まらず、対応に苦慮しています。一般競争入札では次回の見通しができない。
	・公共工事の発注時期を平準化することで、ダンピング対策や従業員の通年雇用による社会保険未加入対策、先を見据えた社員採用につながると思う。 なお、定年の高齢化は若年層の雇入れ、社会保険加入に逆行します。
	・直接工事費に含まれる労務費に反映させるべき。
	・労務単価の引き上げが必要。

4. 下請企業への加入指導は難しい。	
	・1次下請までは加入の指導はできるが、2次下請以降への指導は困難である。
	・元請として、社会保険及び退職金制度の未加入事業者に対しては、指示指導しか対応できない。当然、強制力はなく、未加入事業者の判断にゆだねるしかないのが現状です。

5. 企業に対する社会保険料の負担が重過ぎる。	
	・毎年、増え続ける社会保険料の企業負担を減らしてほしい。
	・社会保険料の会社負担が多すぎて、経営を圧迫しています。会社負担が減少すれば未加入の会社もなくなると思います。
	・社会保険料を安くし、負担を少なくしていただきたい。
	・社会保険の負担がかなり大きい。加入者には評価を高くしてほしい。
	・年々社会保険料率が上昇する為、会社も大変ですが従業員も大変です。「社会保険未加入」は、このことが一番の原因だと思います。

2. まとめ

富山県建設業協会会員企業へのアンケート結果をまとめると、次のような実態が見えてくる。

- ① 技術職・技能職は高齢化が進んでおり、20歳代以下が他の世代に比べ極端に少ないことから、若年者の確保・育成そして定着のための対策を行わなければ、今後ますます高齢化が進むことが予想される。新規の採用がなく現状のままで5年経過したとすると、30歳代の約半数が40歳代に移行し、60歳以上の約半数が退職すると仮定した場合は、40歳以上の技術者・技能者が全体の4分の3になると推察される。
- ② 過去5年間の採用者の約85%は中途採用で、平成25年4月以降の採用予定を見ても、採用予定企業では332社のうち206社(62.0%)、採用予定者数では470名のうち296名(63.0%)が中途採用を予定している。
 厳しい経営環境が続く中で新卒を採用し育成する余力が失われ、即戦力となる中途採用により人材を確保している状況がうかがえる。
- ③ アンケート回答企業の約半数が「採用計画がない」としているが、その理由を見ると「採用したいが経営状況等から採用できない」が半数となっている。経営環境の厳しさや先行きの不安から採用を控えている現実が浮き彫りとなっている。
- ④ 一方、従業員の雇用について「維持できる」と回答した企業が6割近くで、2年前のアンケート時より2割程度増加している。しかし、厳しい状況が続く建設業界の現状を考慮すると、各企業が現状で維持できる体制となるように人員削減や経費削減等を行った結果、「維持できる」とした回答が増えたと思われる。

第三章 10代～30代（40歳未満）の技術職・技能職へのアンケート

1. 調査結果

設問1 技術職・技能職の属性（有効回答者数 647名）

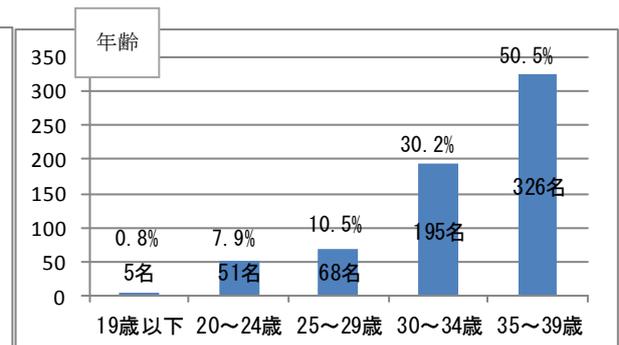
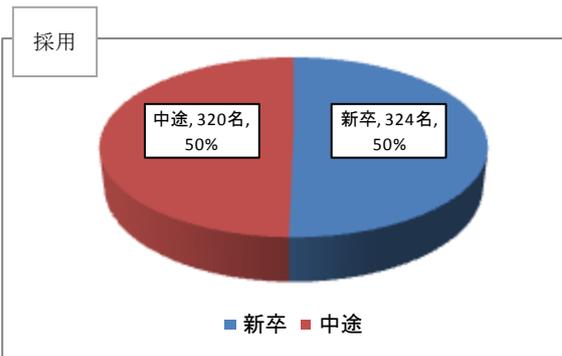
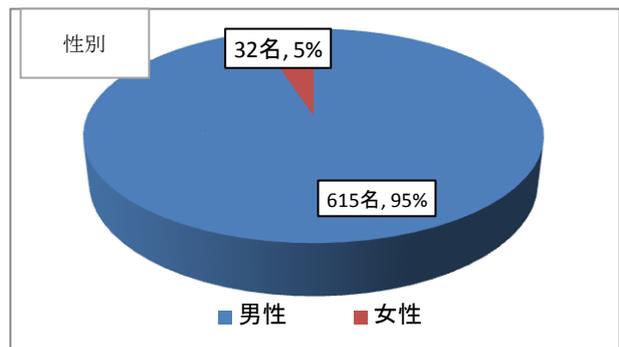
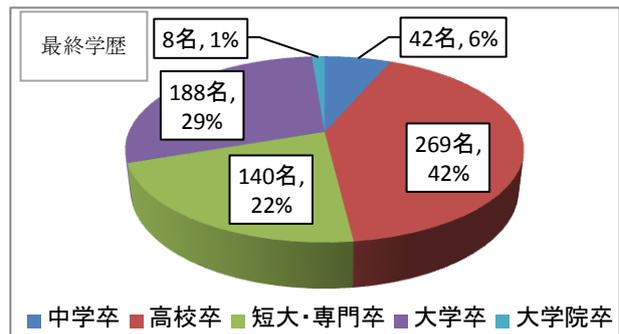
回答があった技術職・技能職の状況を見ると、最終学歴では「高校卒」が269名（42%）で最も多くなっている。次いで「大学卒」が188名（29%）、「短大・専門卒」が140名（22%）と続いている。建設業に入職する技術職・技能職には高校卒が多いことがうかがえる。

技術職・技能職を性別で区分すると、男性が615名（95%）となっており、ほとんどが男性となる。

年齢別では、「35～39歳」326名（50.5%）と半数に上り、「30～34歳」195名（30.2%）と、30歳代が全体の8割を超えている。

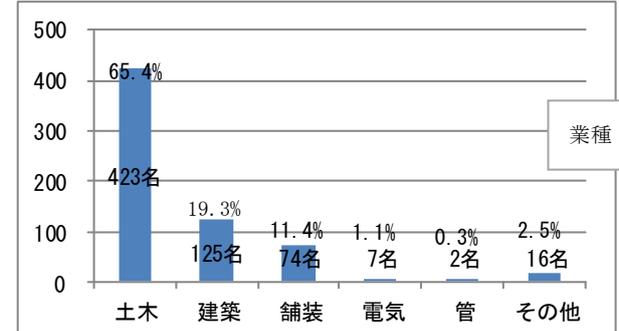
一方、「20～24歳」は51名（7.9%）、「25～29歳」は68名（10.5%）で、20歳代は2割を下回っている。20歳代は30歳代の4分の1となり、世代間に大きな乖離がみられる。

また、回答者の採用状況を見ると、新卒採用と中途採用がそれぞれ半数になっている。



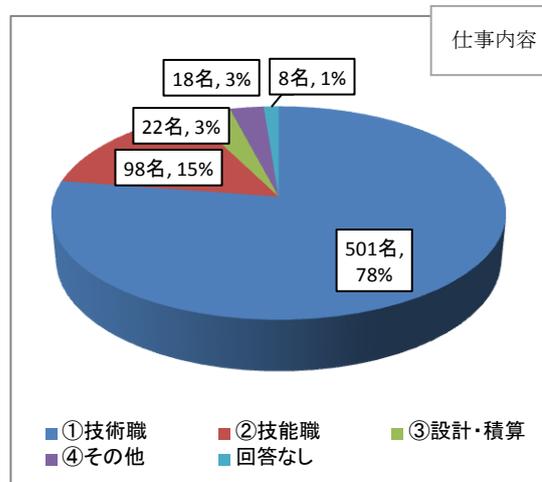
業種別では、「土木」が423名（65.4%）と最も多く、次いで「建築」125名（19.3%）、「舗装」74名（11.4%）となっている。

土木系の技術職・技能職が全体の3分の2を占めているということが特徴となっている。



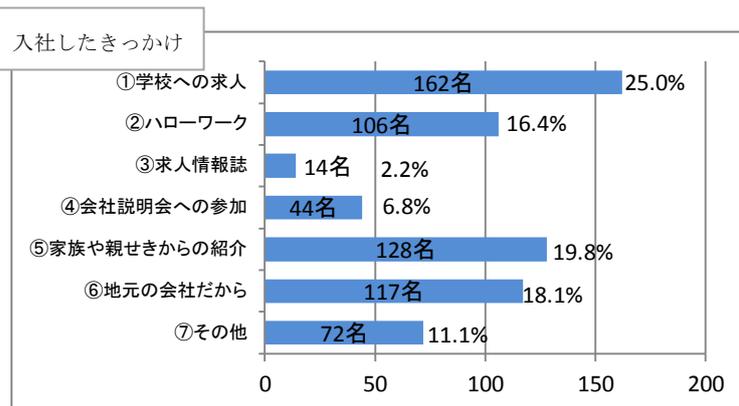
設問2 仕事内容について（有効回答者数 647名）

回答者の仕事の内容を見ると、「技術職」が501名（78%）と8割程度に達しており、「技能職」は98名（15%）となっている。現場に従事する「技術職」「技能職」を併せて93%となり、「設計・積算」のみを担当する技術職は22名（3%）となっている。



設問3 建設会社に入社したきっかけ（有効回答者数 647名）

建設会社に入社したきっかけについては、「学校への求人」が162名（25.0%）で最も多く全体の4分の1を占めている。次いで「ハローワーク」が106名（16.4%）、「家族や親せきからの紹介」が128名（19.8%）、「地元の会社だから」が117名（18.1%）となっており、いずれも20%前後となっている。



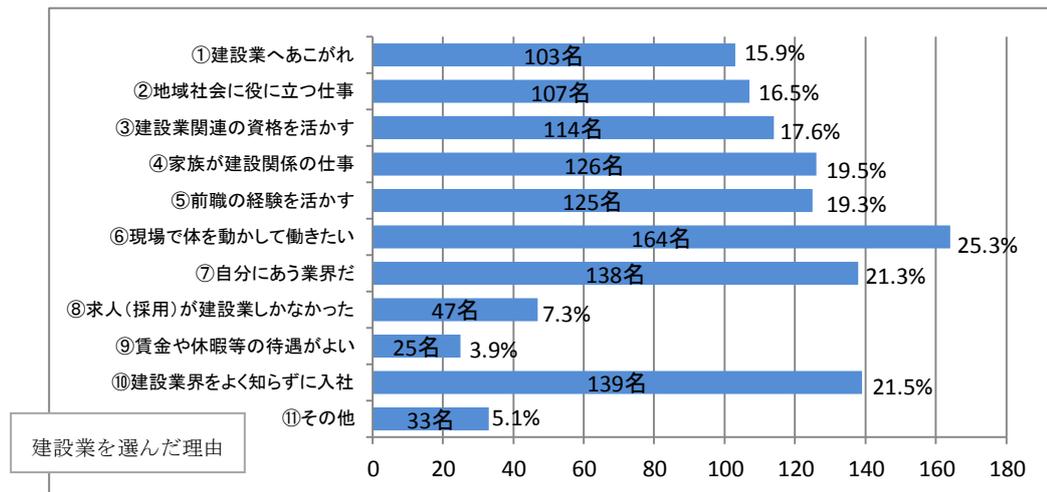
「その他」の具体的内容を見ると「知人・友人の紹介」が32名であり、「家族・親せきからの紹介」と合算すると160名となり1位の「学校への求人」（162名、25.0%）と並ぶ。

知人・友人の紹介	32名
親・親戚の会社	9名
同業者の紹介	5名
知っている会社	3名
自宅に電話	3名
ホームページ	2名

設問4 建設業界を選んだ理由（回答数2つ）（有効回答者数647名）

建設業界を選んだ理由では、「現場で体を動かして働きたい」が164名（25.3%）と最も多い。次いで、「建設業界をよく知らずに入社した」が139名（21.5%）、「自分にあう業界だ」が138名（21.3%）、「家族が建設関係の仕事である」が126名（19.5%）、「前職の経験を活かす」が125名（19.3%）、「建設業関連の資格を活かす」が114名（17.6%）となっている。

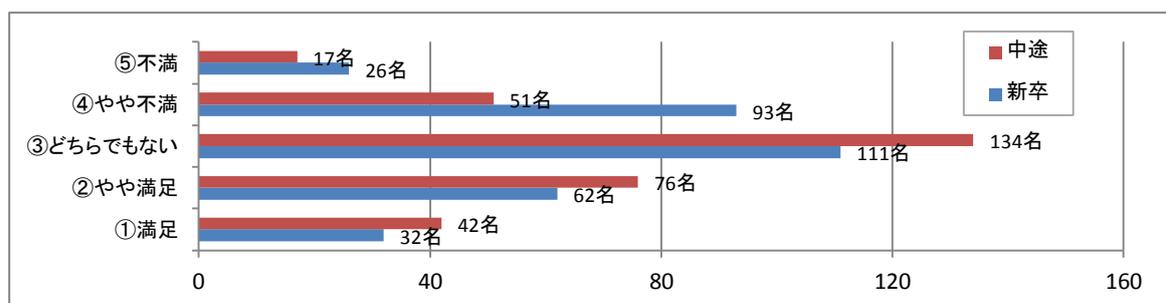
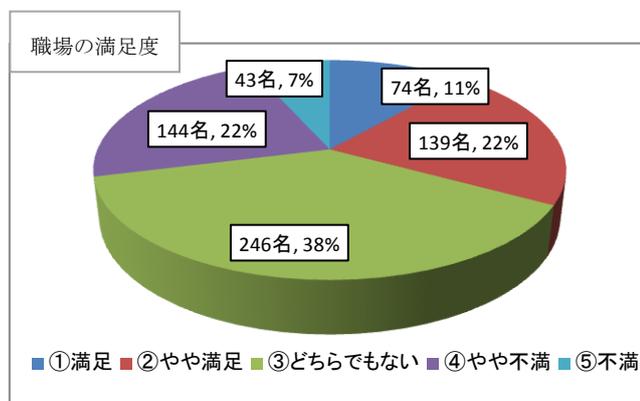
なお、「建設業界をよく知らずに入社した」の内訳は新卒85名、中途54名であった。



設問5 職場の満足度（有効回答者数647名）

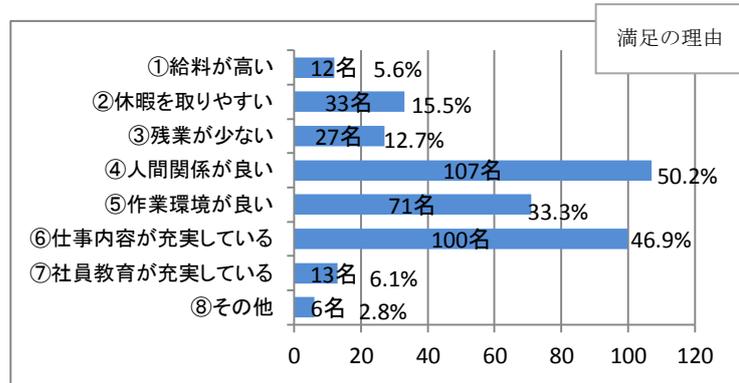
今の職場に対する満足度を5段階で見ると、「どちらでもない」が246名（38%）で最も多いが、「満足」と「やや満足」の合計で33%、「不満」と「やや不満」の合計で29%と、「満足」、「不満」、「どちらでもない」がおおよそ3分の1ずつとなっている。職場の満足度については、大きな偏りは見られないという結果となった。

新卒と中途に分けてみると、新卒の採用者に「不満」「やや不満」が多くなっている傾向がみられ、中途の採用者では「満足」「やや満足」が多い傾向である。



設問6 問5で「満足」「やや満足」と回答した理由（回答数2つ）（有効回答者数213名）

設問5で「満足」「やや満足」と回答した理由では、「人間関係が良い」が107名（50.2%）と最も多く、次いで「仕事内容が充実している」100名（46.9%）、「作業環境が良い」71名（33.3%）となっている。職場に満足している理由として、職場環境や仕事内容を挙げる技術者・技能者が多いことがわかる。

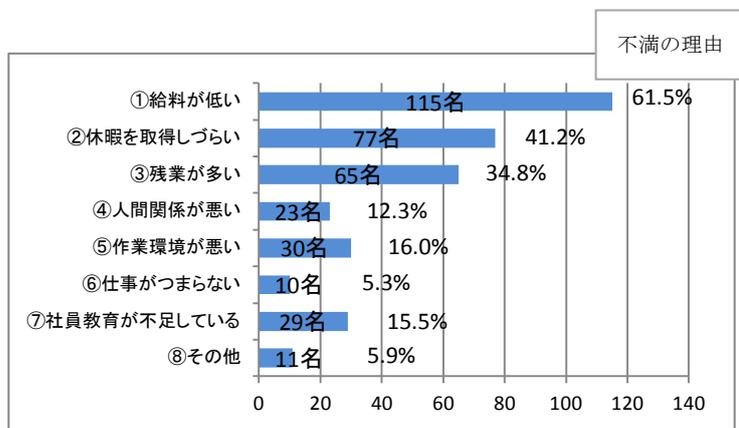


設問7 設問5で「やや不満」「不満」と回答した理由（回答数2つ）（有効回答者数187名）

設問5で「やや不満」「不満」と回答した理由では、「給料が低い」が最も多く115名となり、全体の61.5%が給料に対して不満を持っている結果となった。

次いで「休暇を取得しづらい」が77名（41.2%）、「残業が多い」が65名（34.8%）となっている。

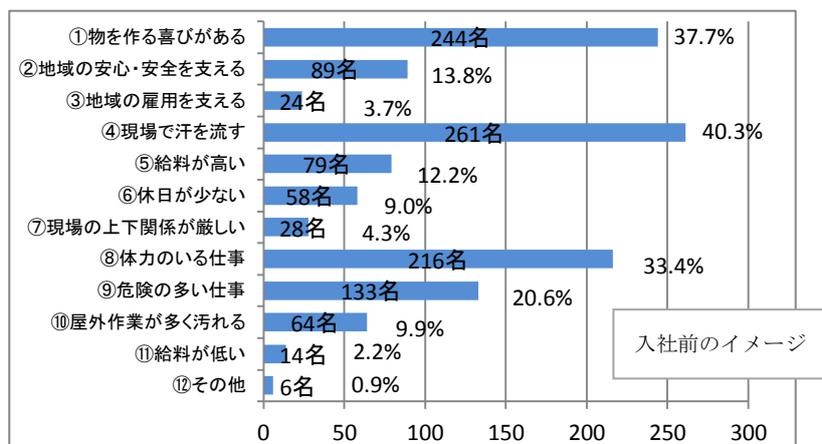
職場への不満の多くが自身の待遇（給与、休暇、残業）に集中していることがわかる。



設問8 建設業に対する入社前のイメージ（回答数2つ）（有効回答者数647名）

建設業に対する入社前のイメージは、「現場で汗を流す」が261名（40.3%）と最も多く、「物を作る喜びがある」が244名（37.7%）、「体力のいる仕事」216名（33.4%）と続いている。

一方、「危険が多い仕事」は20.6%、「屋外作業が多く汚れる」は9.9%に止まり、入社前のイメージとしては世間一般の3Kよりも、体を動かして物を作る業界というイメージが強いと思われる。

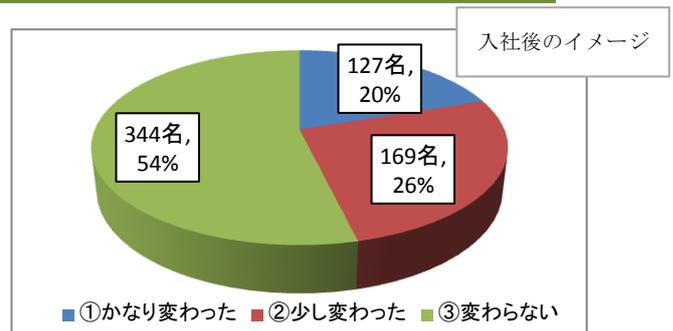


設問9 入社してからの建設業に対するイメージ（有効回答者数 647名）

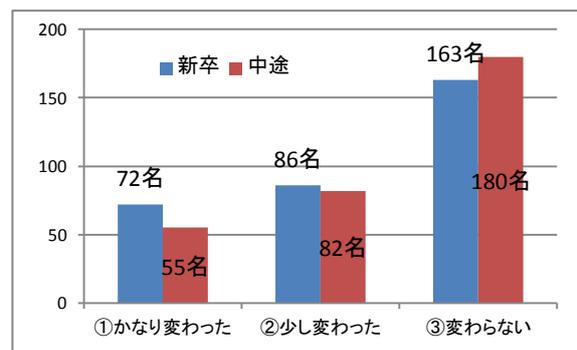
建設業に対するイメージについて入社前と入社後を比較した場合、「変わらない」とした人が 344 名（54%）で過半数を超えており、「少し変わった」26%、「かなり変わった」20%の合計より多くなっている。

また、入社後のイメージと満足度の関係を見ると、「かなり変わった」と感じている技術職・技能職の中で「満足」「やや満足」と思っている人が 28 名、「やや不満」「不満」と思っている人が 65 名おり、入社後のイメージが「かなり変わった」と感じている技術職・技能職は今の職場に対して不満に思っている結果となっている。

入社後のイメージを新卒と中途に分けてみると、「変わらない」が新卒、中途ともに最も多くなっているが、「かなり変わった」「少し変わった」では新卒が 158 名、中途が 137 名であり、新卒の方がイメージのギャップが大きい結果となっている。

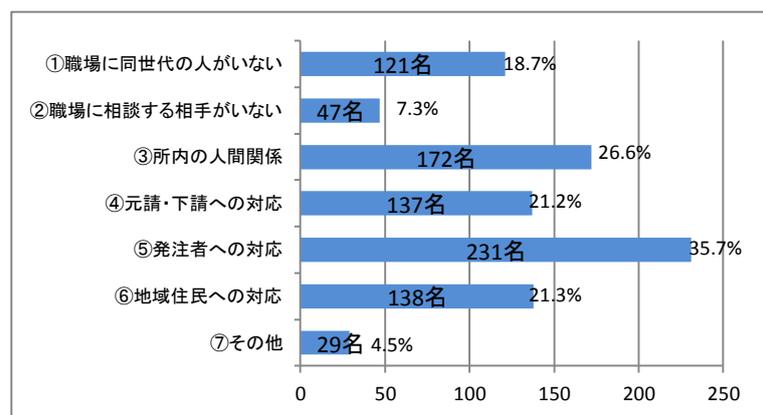


	①かなり変わった	②少し変わった	③変わらない	総計
①満足	5名	14名	55名	74名
②やや満足	23名	48名	67名	138名
③どちらでもない	34名	57名	153名	244名
④やや不満	40名	47名	55名	142名
⑤不満	25名	3名	14名	42名



設問10 人間関係で不安やストレスに感じること（回答数2つ）（有効回答者数 647名）

仕事上の人間関係で不安やストレスに感じることは、「発注者への対応」が最も多く 231 名（35.7%）で 3 割を超えている。次いで「所内の人間関係」が 172 名（26.6%）、「地域住民への対応」が 138 名（21.3%）、「元請・下請けへの対応」が 137 名（21.2%）となっており、対外的な対応に不安やストレスを感じている傾向が高い。

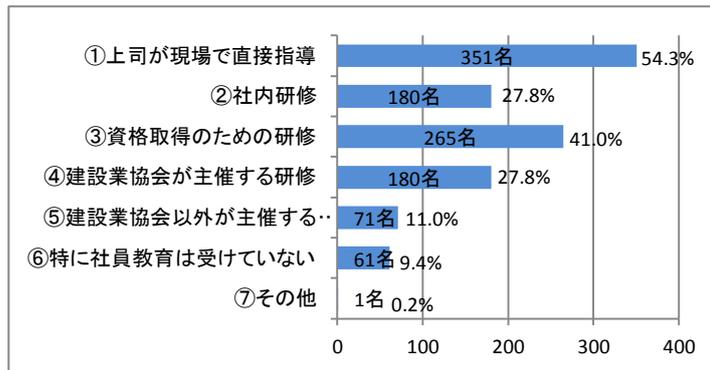


また、「所内の人間関係」にストレスを感じている傾向も高く、「職場に同世代の人がいない」「職場に相談する相手がいない」と連動していると考えられる。

設問 1 1 社員教育について（回答数 2 つ）（有効回答者数 647 名）

職場における社員教育では、「上司が現場で直接指導」が 351 名（54.3%）と最も多く、次いで「資格取得のための研修」が 265 名（41.0%）、「建設業協会が主催する研修」と「社内研修」が同数で、いずれも 180 名（27.8%）となった。

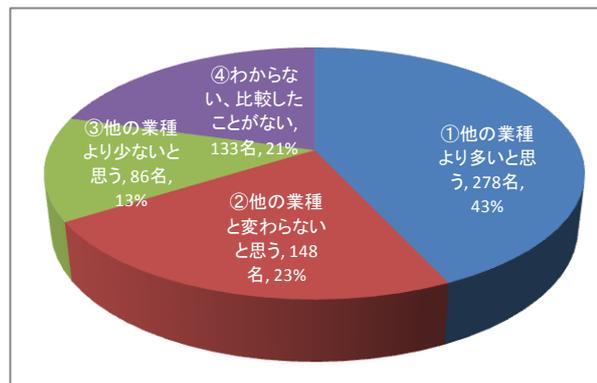
若手技術者・技能者への教育では現場での技術の習得と資格の取得が中心であることがうかがえる。



設問 1 2 残業時間について（有効回答者数 645 名）

残業時間を見ると、「他の業種より多いと思う」が 43%で、「他の業種と変わらないと思う」が 23%となっている。

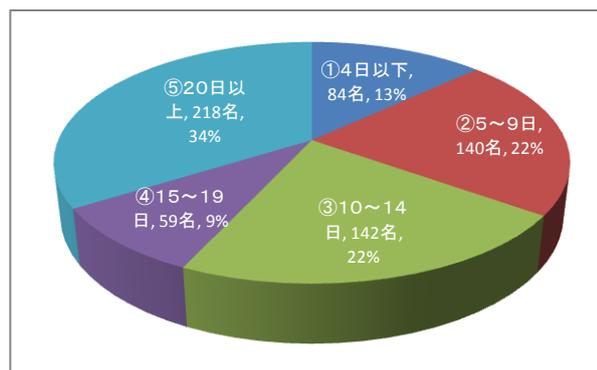
建設業の残業時間は他業種と同じかそれ以上と感じている技術職・技能職が 66%と 3分の2 に上っており、建設業は他の業種と比べの残業時間が多いと感じていることがわかる。



設問 1 3 休日出勤日数について（有効回答数 647 名）

休日出勤の状況では、最も多いのが「20日以上」218名（33.6%）となっている。次いで「10～14日」が142名（21.9%）、「5～9日」が140名（21.6%）となっている。

年間で10日以上休日出勤をしている人は64.6%と、厳しい工期や膨大な提出書類に追われ休日出勤をせざるを得ない状況下にあると考えられる。

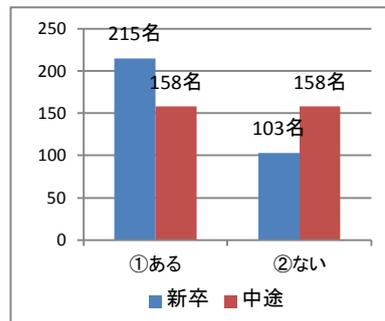
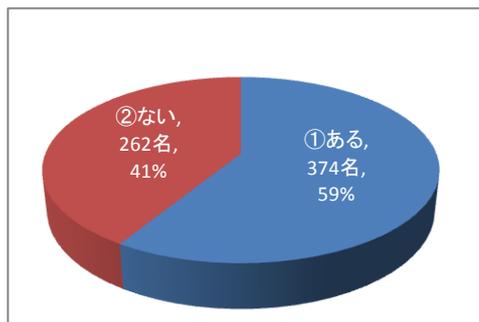


なお、休日出勤が多い方が残業時間も多いたと感じており、一度工事現場に配属されると現場第一になっている実態を反映している。

	①4日以下	②5～9日	③10～14日	④15～19日	⑤20日以上	計
①他の業種より多いと思う	11名	29名	54名	27名	157名	278名
②他の業種と変わらないと思う	18名	45名	46名	12名	27名	148名
③他の業種より少ないと思う	26名	31名	16名	6名	7名	86名

設問 1 4 会社を辞めたいと思うか？（有効回答者数 647 名）

今の会社を辞めたいと思うことがあるかどうかの設問では、辞めたいと思ったことが「ある」と答えた技術職・技能職が 374 名で 59%と過半数を超えている。



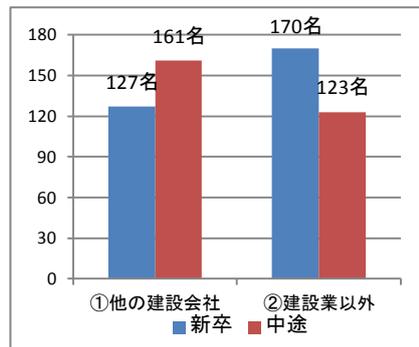
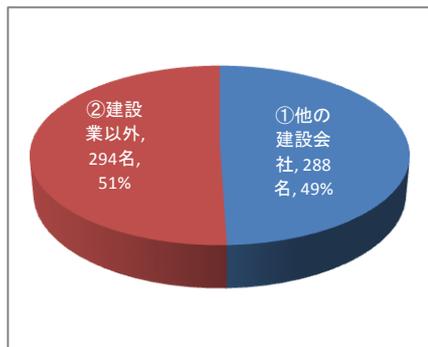
これを新卒と中途

で見ると、中途が辞めたいと思うことが「ある」と「ない」が同数となっているが、新卒では「ある」の方が「ない」の2倍以上となっている。

設問5の職場の満足度では、新卒が中途と比較して「不満」とした回答が多く、設問9の入社後のイメージでは「変わった」との回答が多くなっていることを反映した結果となっている。

設問 1 5 会社を辞めた場合に希望する転職先（有効回答者数 647 名）

会社を辞めた場合の転職先では、「他の建設会社」が 248 名（49%）、「建設業以外」が 294 名（51%）と、全体では「建設業界」と「建設業界以外」の比率が概ね半々となっている。



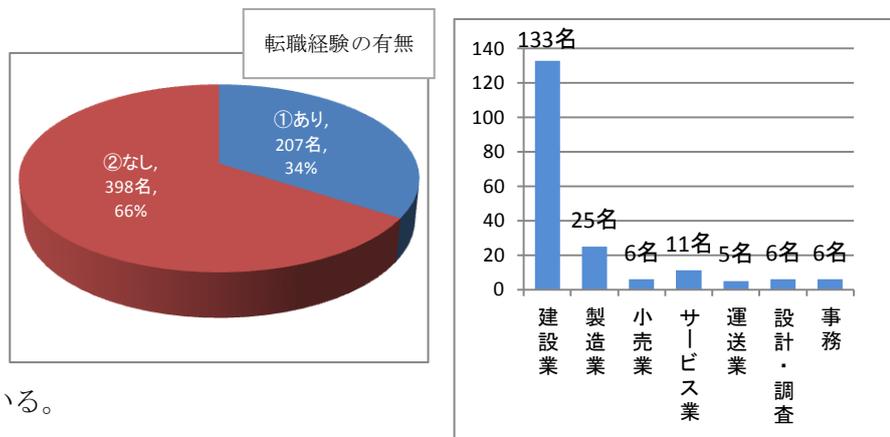
これを新卒と中途で分けると、中途では「他の建設会社」の割合が高く、新卒では「建設業以外」の割合が高い。新卒者の職場に対する満足度の低さや入社後のイメージの変化も影響していると考えられる。

「建設業以外」と答えた中で具体的に名前が挙がった 38 名の内訳を見ると、製造業が 22 名と最も多く、次いでサービス業が 16 名となっている。

なお、具体的な業種が「特になし」が 27 名で無回答者の 65 名と合わせると 92 名となり、具体的な転職先はイメージしていないが建設業界から出たいと考えている技術職・技能職が多いことがわかる。

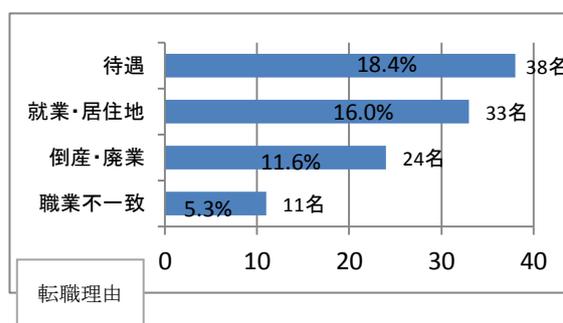
設問 1 6 転職経験の有無等（有効回答者数 647 名）

過去の転職経験の有無では、「転職経験あり」が 207 名（34%）で、「転職経験なし」が 398 名（66%）である。全体の 3分の1が転職経験ありとなっている。

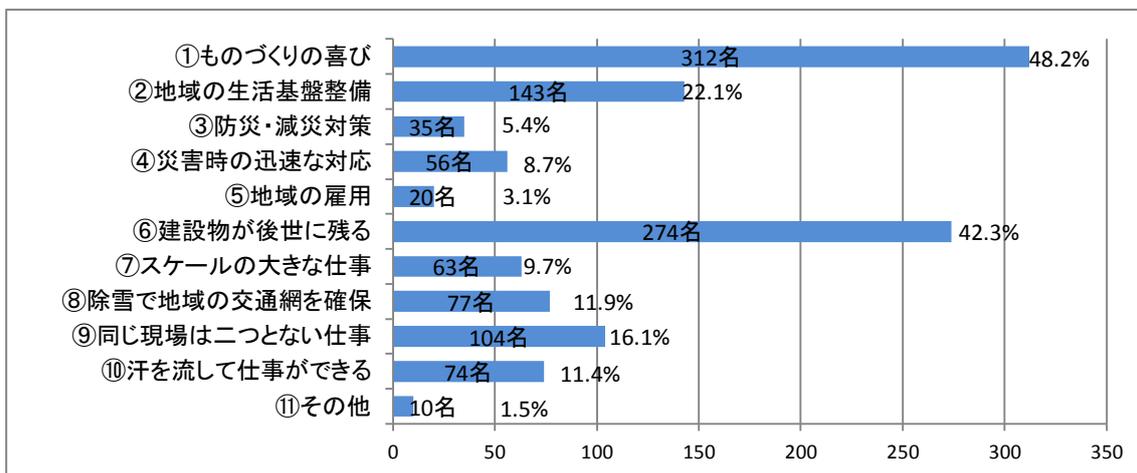


「転職経験あり」の中で具体的な業種を見ると、「建設業」が 133 名（64.3%）を占め、建設業界内での転職多いことがうかがえる。

転職した理由では、「給与」「残業」「休暇」など待遇に対する不満が最も多く 18.4%となっている。次いで「異動できない」「地元に戻る」など就業・居住地に関してが 16.0%、「会社が倒産・廃業した」が 11.6%となっている。



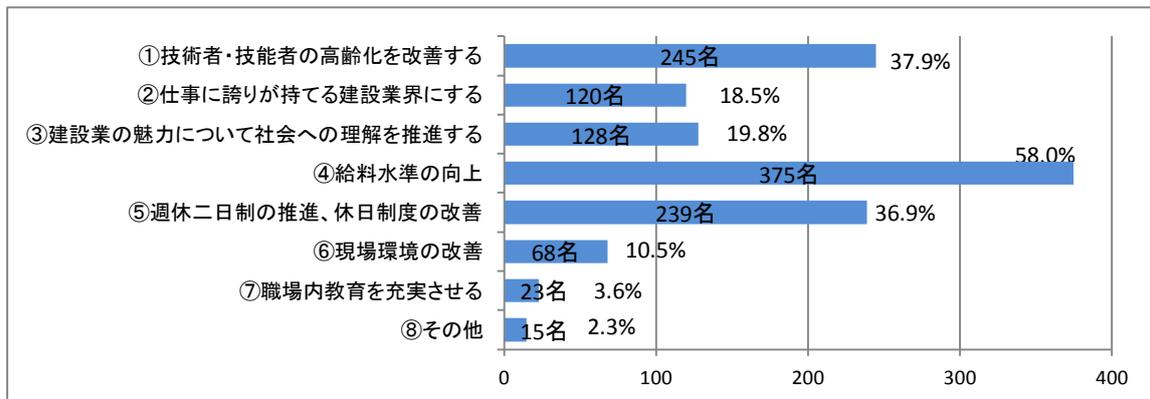
設問 1 7 建設業の仕事への誇り（回答数 2 つ）（有効回答者数 647 名）



建設業の仕事で誇りに思うことでは、「ものづくりの喜び」が 312 名（48.2%）で最も多く、「建設物が後世に残る」が 274 名（42.3%）となっており、上位 2 つで 4 割を超えている。

技術者・技能者が手がける仕事への誇りや自信、ものづくりに対するこだわりが表れた結果と思われる。

設問 18 建設業界に望むこと（回答数 2 つ）（有効回答者数 647 名）



建設業界に望むことでは、「給料水準の向上」が 375 名（58.0%）で最も多い。次いで「技術職・技能職の高齢化を改善する」245 名（37.9%）、「週休二日制の推進、休日制度の改善」239 名（36.9%）となっており、上位 3 つが 3 割を超えている。「給料水準の向上」と「週休二日制の改善」を合計すると 9 割を超え、ほとんどの技術職・技能職が待遇の改善を望んでいる結果となった。また、高齢化の改善についても 4 割弱が回答しており、高齢化が進み若年者が入職・定着しない現場の実態からか、関心が高いことがうかがえる。

一方、「建設業の魅力について社会への理解を推進する」が 18.5%、「仕事に誇りが持てる建設業界にする」が 19.8%と、建設業界が担っている役割や重要性を一般市民へ PR し、マイナスイメージが改善されることを望む意見も多い。

設問 19 建設業界に入職してくる若者に伝えたいこと（抜粋）

建設業界に入職してくる若者に伝えたいことを見ると、ものを作ることの喜びや仕事のやりがいといった建設業の素晴らしさを伝えたいという意見の他、入職前のイメージと現実とのギャップを感じさせないようなアドバイスが多くを占めている。一方で、建設業界の厳しさから入職を取りやめるような否定的な意見も散見される。

具体的な意見の中で主なものは以下のとおりである。

1. ものづくりの喜びを味わえる	
・	つらい仕事だが、必ず自分のためになる。
・	完成検査が終わった時の達成感は最高に気分が良い。
・	自分が手掛けた建物が出来上がるときの喜びは他の業種では味わえないものだと思います。
・	現場の管理など大変な時もあるが完成した時に喜びがある。
・	働く喜びはどんな職業にもある。建設業の喜びは物を作る達成感にある。同じものは二つとない。
・	体と頭の両方を使う仕事。ものができたときの達成感を味わえる職種です。
・	モノづくりの喜びを知ってもらいたい。
・	ものを作るという喜びと建設物が残るとい喜びがあり、その機能、役割があるという喜び。
・	犠牲にするものが多々出てくるが、やり遂げたときの喜びは大きなものを感じる仕事です。
・	自分で手掛けた建設物が後世にわたって残ることと、物づくりの喜び、達成感があることが魅力。
・	社会でイメージされている土木業界と現実はかなりギャップがありますが、ものを作る喜びをみなさんと共有しましょう。
・	大変な仕事ですが、地域に貢献でき、物を作る喜びがあります。

2. やりがいのある仕事である	
	・衣食住の一つを担っている大事な業種であり、建物は30年50年後も残る、やりがいのある仕事です。
	・やりがいのある面白い仕事。辛いことと喜びは紙一重。辛いからこそそれ以上の喜びがある。オペレーターではなく、自ら作り出すクリエイターになってください。
	・仕事はつらいかもしれませんが橋や道路が完成し、実際に多くの人に利用され、感動する気持ちを日々胸に秘め仕事をしています。実際に経験しないとわからない気持ちですので、まずは一現場をこなしてみてください。
	・自分の現在持っているイメージと実際のイメージには大きなギャップを感じることもありますが、やりがいのある業種であると思います。
	・他業種よりも仕事面ではきついと思いますが、その分やりがいのある仕事だと思います。
	・仕事をおもしろいと感じるまで時間がかかる業界ですが、喜びや楽しみもたくさんあります。
	・屋外作業が多く、夏は暑く冬は寒い厳しい仕事です。危険はありますが、やりがいもあります。
	・きつい仕事ばかりで体力がいる業界ですが、やりがいがあります。
	・建設業界で働きたいと思って入ってくる人にとっては本当にやりがいのある世界だと感じる。
	・建設業はとにかくいろいろと深い分野ですが、とてもやりがいを感じる仕事だと感じています。人から感謝され、生活を守るという意味では素晴らしい業界だと思います。
	・工事が完了した時の達成感他業種では味わえません。ぜひチャレンジしてほしい。
	・公私ともに培った経験を活かせる業界で、人間性を磨くにも素敵な業界である。
	・大変な仕事ですがやりがいを見つけて一歩ずつ成長していただきたいと思います。
	・地域の皆様の役に立ち自分の手がけた建設物が後世に残りやりがいがある。
	・不景気のせいもあって待遇の良さには期待できないけど、やりがいのある仕事だと思うよ。
	・建設業は汚いことや辛いことばかりではなく、やりがいのある仕事です。モノ作りの大切さも分かってもらいたいです。

3. 楽しい仕事である	
	・外仕事は最高です。
	・厳しくも楽しい業界である。
	・自分が携わった建物が完成してから、地域の人が利用しているのをみると何か嬉しいですよ。
	・いろんな人間に会え、いろんな重機に乗ることができる。毎日新しい発見があり飽きることがない。
	・3Kではありますが、自らものを作る楽しさがあります。
	・土を相手にする仕事は、精神衛生上最も良い仕事であることを知ってほしい。

4. 頑張してほしい	
	・建設業界を若返らせるためともに頑張ろう。
	・この仕事は、維持修繕など無くなることのない業種です。頑張ってください。
	・夢のある業界であるが、現実のギャップに負けるな。
	・仕事は想像以上に大変ですけど頑張ってください。
	・大変な仕事なので頑張ってください。
	・頑張ろう。やる気はあるのか？
	・資格を取って頑張ってください。
	・地域のために頑張ってください。
	・入社当時はつらく大変なことが多いかもしれないが、自分を追い込み過ぎず逃げ道を造って仕事が楽しいと思える様に頑張ってください。
	・自分たちの国を住みやすくするために働くわけで、喜びを持って仕事に取り組んでほしい。
	・広い視野を持っている人からの知識を自分で考え努力してほしい。
	・一日一日が勉強となるので継続した努力が必要です。
	・我慢強く根気よく長く続けること。叱られることは当たり前です。
	・これからの建設業界を一緒に担おう。
	・何事も継続することが必要です。仕事、人間関係で辛いことがあっても続けてほしい。そこから始まりです。

5. 入職者へのアドバイスや理想	
	<ul style="list-style-type: none"> ・昔から言われる 3K（キツイ・キタナイ・キケン）が改善されているとはいえ、やはりその風習は残っていると思います。20～30代の職員が敬遠する業種であるのは否定できません。「モノづくりの喜び」「後世に残る仕事」など誇りに思える点は多くありますが、それ以上に改善していく点が多い業種だと思います。生半可な気持ちでは長続きできません。強い志を持ち入職してください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・責任感、仕事に誇りを持つ人に合う仕事だと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力のある仕事ではありますが、給料は安く休日が少ないのも現実です。また、多くの人と接しながらの仕事です。コミュニケーション能力は必要不可欠です。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや向上心を持って入職してほしいです。
	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは現場でスコープをもって仕事して底辺の苦勞を味わってから、現場を統括し会社を引っ張っていくような人間になってほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・間違いを認めることと人に教えを乞うこと。どんな形でも常に向上心を持ってほしい。人に言われたことしかやらないのではなく自分の考えも持って仕事をしてほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「馬鹿でもできる仕事」「体力があればできる仕事」「ニッカポッカを履いている人に憧れている」ような人は建設業を甘く見てほしくない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・土木や建設業ほど頭を使う仕事はない。入るなら覚悟をして。
	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を覚えるのは大変だけど自分で考えて仕事を進めることができるようになってくると面白くなってくる。常に学ぶことが大切。
	<ul style="list-style-type: none"> ・施工管理技術職の目指すなら一通りのパソコン操作、エクセル・ワードは必須です。
	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事への思いが毎日変化すると思われると思うが、この仕事をするこゝへ気持ちをしっかり持ってほしいと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・苦しいこともあるだろう、言いたいこともあるだろう、不満なこともあるだろう、腹の立つこともあるだろう、泣きたいこともあるだろう、これをじっとこらえてゆくの男の修行である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・手に職はつくので良いと思うが、本人次第です。一応、なくならないであろう業界なので続ける分にはいいと思う。事前に給与、休日は要確認。（特に給与）
	<ul style="list-style-type: none"> ・逃げるのは簡単だが、逃げないでほしい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・不満や理不尽なことが多いと思うが、忍耐することも必要だと思う。
	<ul style="list-style-type: none"> ・現場作業では毎日を安全に過ごしてください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・事故、けが、病気に十分注意すること。
	<ul style="list-style-type: none"> ・体を壊さないよう、休みを取りましょう。
	<ul style="list-style-type: none"> ・大変な仕事なので、覚悟をもって入職すべき。
	<ul style="list-style-type: none"> ・5～6年の経験でも一人前扱いされません。ツライ、キツイで辞めるなら入職しない方が良いです。10年、20年、定年まで勤め上げる覚悟を持ってください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・建設業界は、忍耐と体力と人間関係が必要。
	<ul style="list-style-type: none"> ・建設業は、現場も設計も勉強することがいっぱいあります
	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事はどんな職種でも大変なものだと思って職に就いてほしい
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が入る会社を良く調べてから入った方が良いと思う
	<ul style="list-style-type: none"> ・他の業種と比べて特殊な環境だと思います。慣れるまでは大変ですが、すぐにあきらめたりしないでほしいです。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との対応が大変です。
	<ul style="list-style-type: none"> ・技術職であり、昔ほど甘くない。
	<ul style="list-style-type: none"> ・どんどん積極的に仕事をしていっぱい失敗して学んで下さい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・忍耐力を向上させること。すぐに辞めない。興味をもっと持って仕事に向かうこと。
	<ul style="list-style-type: none"> ・勉学は一生もの。義務教育で安堵するな。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ意欲旺盛な方に入職していただきたい。

7. 入職に否定的な意見を述べている

- ・中途半端ならやめた方がいい。
- ・給料が低い。休みが少ない。
- ・今の建設業界は厳しいので入職しない方が良くと思う。
- ・週休二日制を望むなら他の業界へ進むべき。
- ・建設業界に入職しても大変なだけです。
- ・もう一度考えて決めた方がいい。
- ・今の建設業界に明るい未来は感じられない。
- ・興味本位でやらないこと。
- ・思った以上に良くないです。
- ・現状のままだと建設業界には入職しない方がいい。
- ・この厳しい現状が続くようであれば建設業界に入らない方がいい。
- ・土木に先はない。

2. まとめ

10代～30代（40歳未満）の技術職・技能職へのアンケート結果をまとめると、次のような実態が見えてくる。

① 就職先に建設業界を選んだ理由は、現場での仕事に魅力を覚え、それが自分に合っていると感じていることであり、仕事の魅力や自身の性格等から建設業界を選択していることがうかがえる。一方、2割程は建設業界のことをよく理解しないまま入職しており、その割合は新卒 61.2%、中途 38.8%と新卒に多くみられることから、建設業が担う役割や仕事内容を建設業界以外へ向けて広くPRしていく必要があると言える。

② 職場の満足度では、新卒採用で不満が多く、中途採用では満足が多い傾向となっている。満足の理由では「人間関係」や「仕事の充実」など仕事内容や環境に対する理由が多いが、不満の理由では「給料が低い」や「休暇が取りづらい」、「残業が多い」など待遇面に関する理由が多い。特に、入社してから建設業のイメージがかなり変わったと感じている技術職・技能職に不満が多くなっている。

また、仕事上でストレスを感じる原因で最も多いのは「発注者への対応」で、3人に1人は発注者への対応にストレスを感じている。厳しい工期や膨大な提出書類の中で、残業や休日出勤を行いながら現場を運営している実態が表れている。

③ 技術職・技能職で会社を辞めたいと6割近くが思ったことがあるものの、会社を辞めた場合でも約半数の人が建設業界に留まるとしている。転職経験者の前職を見ると最も多いのが建設業であり、会社側の中途採用の希望状況とマッチングしている。

転職希望者の多くは会社の待遇に対する不満を理由とし、再就職先として建設会社を選択していることから、ものづくりの喜びや建設物が後世に残るといった建設業の仕事に対する誇りを失っているわけではないと考えられる。

第四章 富山県立高校建設系学科の高校生へのアンケート

1. 調査結果

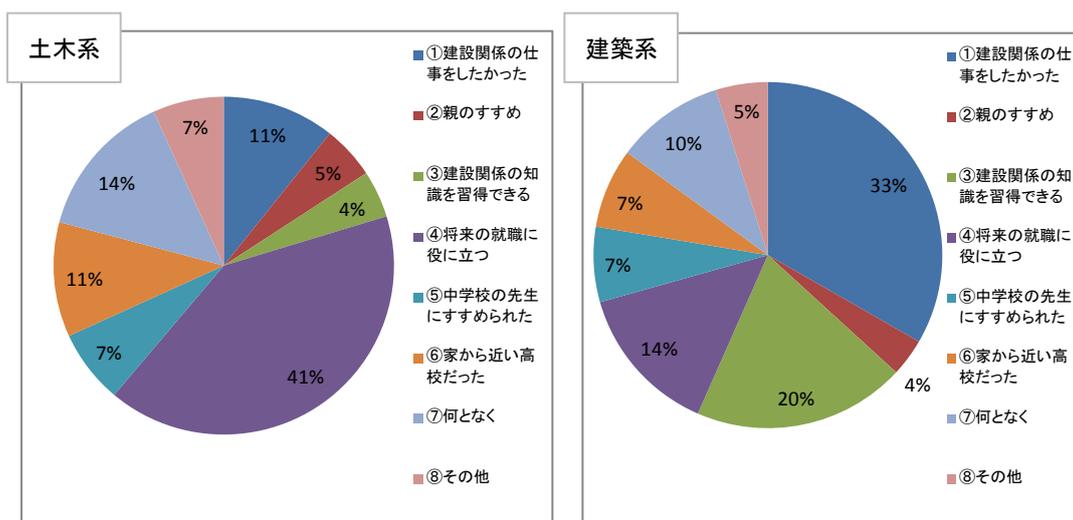
設問1 今の高校に進学した理由（有効回答者数 582名）

今の高校に進学した理由では、土木系学科で「将来の就職に役立つ」が145名で41%と最も多く、その他の選択肢は10%前後となっている。建築系学科では「建設関係の仕事がしたかった」が76名で33%、「建設関係の知識を習得できる」が45名で20%となっており、「将来の就職に役立つ」が14%で第3位である。

土木系、建築系いずれも卒業後の就職に重きを置き入学しているが、特に建築系の生徒では建築の知識習得など建築そのものに興味があって進学していることがうかがえる。

一方、土木系では「何となく」が14%、「家から近い高校だった」が11%と、建設業界への関心があまりないにも関わらず入学した生徒の割合が25%程度を占めている。

	土木系			建築系			1年		2年		3年		総計
	男	女	合計	男	女	合計	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
①建設関係の仕事をしたかった	34名	4名	38名	65名	11名	76名	45名	19.7%	24名	13.8%	45名	25.0%	114名
②親のすすめ	16名	2名	18名	5名	3名	8名	14名	6.1%	7名	4.0%	5名	2.8%	26名
③建設関係の知識を習得できる	15名	1名	16名	30名	15名	45名	23名	10.1%	18名	10.3%	19名	10.6%	61名
④将来の就職に役に立つ	134名	11名	145名	17名	15名	32名	80名	35.1%	53名	30.5%	44名	24.4%	177名
⑤中学校の先生にすすめられた	23名	2名	25名	8名	8名	16名	8名	3.5%	16名	9.2%	17名	9.4%	41名
⑥家から近い高校だった	33名	6名	39名	12名	5名	17名	18名	7.9%	21名	12.1%	17名	9.4%	56名
⑦何となく	46名	4名	50名	20名	3名	23名	24名	10.5%	23名	13.2%	26名	14.4%	73名
⑧その他	23名	1名	24名	4名	7名	11名	16名	7.0%	12名	6.9%	7名	3.9%	35名
総計	324名	31名	355名	161名	67名	228名	228名	100.0%	174名	100.0%	180名	100.0%	583名

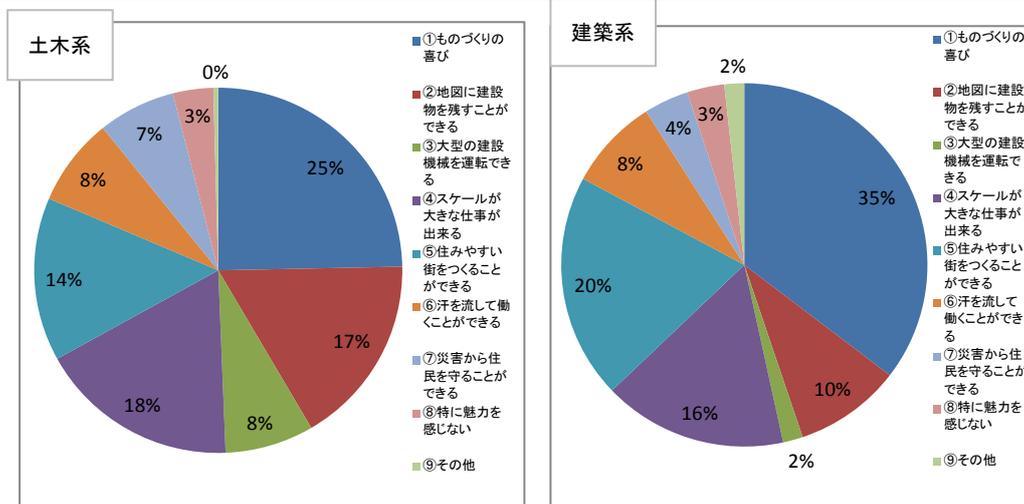


設問2 建設業の魅力について（回答数2つ）（有効回答者数582名）

建設業の魅力をたずねたところ、土木系では「ものづくりの喜びを味わえる」が174名で25%と最も多く、次いで「スケールの大きな仕事ができる」が18%、「地図に建設物を残すことができる」が17%、「住みやすい街を作ることができる」が14%といずれも15%前後で拮抗している。一方、建築系では「ものづくりの喜びを味わえる」が161名で35%と最も多く、「住みやすい街を作ることができる」が20%、「スケールの大きな仕事ができる」が16%となっている。

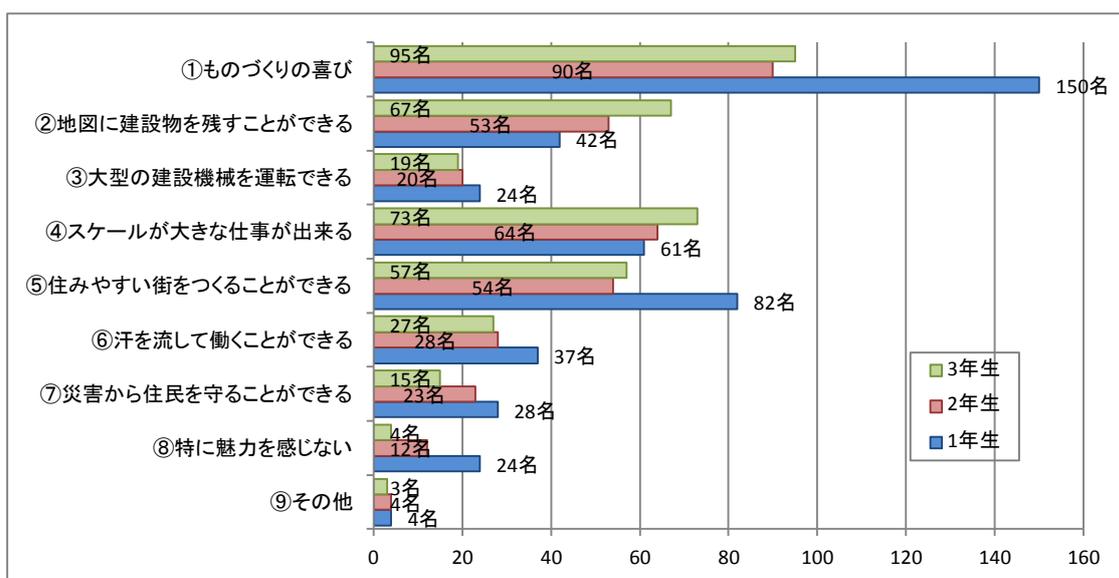
土木系・建築系の生徒ともに、建設業の魅力はものづくりにあり、その作られた建設物によって住みやすい街が作られるといったスケールの大きさに魅力を感じていることがうかがえる。

	土木系			建築系			1年		2年		3年		総計
	男	女	合計	男	女	合計	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
①ものづくりの喜び	154名	20名	174名	112名	49名	161名	150名	33.2%	90名	25.9%	95名	26.4%	335名
②地図に建設物を残すことができる	112名	7名	119名	29名	14名	43名	42名	9.3%	53名	15.2%	67名	18.6%	162名
③大型の建設機械を運転できる	52名	3名	55名	8名	0名	8名	24名	5.3%	20名	5.7%	19名	5.3%	63名
④スケールが大きな仕事ができる	116名	8名	124名	54名	20名	74名	61名	13.5%	64名	18.4%	73名	20.3%	198名
⑤住みやすい街を作ることができる	89名	13名	102名	57名	34名	91名	82名	18.1%	54名	15.5%	57名	15.8%	193名
⑥汗を流して働くことができる	54名	1名	55名	32名	5名	37名	37名	8.2%	28名	8.0%	27名	7.5%	92名
⑦災害から住民を守ることができる	42名	6名	48名	11名	7名	18名	28名	6.2%	23名	6.6%	15名	4.2%	66名
⑧特に魅力を感じない	23名	2名	25名	11名	4名	15名	24名	5.3%	12名	3.4%	4名	1.1%	40名
⑨その他	3名	0名	3名	7名	1名	8名	4名	0.9%	4名	1.1%	3名	0.8%	11名
総計	645名	60名	705名	321名	134名	455名	452名	100.0%	348名	100.0%	360名	100.0%	1160名



建設業の魅力についての回答を学年別に見ると、1年生から3年生までの全学年で「ものづくりの喜びを味わえる」が最も多く、特に1年生で突出している。

第2位は1年生では「住みやすい街を作ることができる」であるが、2年生と3年生では「スケールの大きな仕事ができる」となっている。1年生では純粋に建設物を作ることに魅力を感じているが、2・3年生になると建設に関する専門的知識を得ることによって魅力を感じる方向性に変化が出ていることがうかがえる。

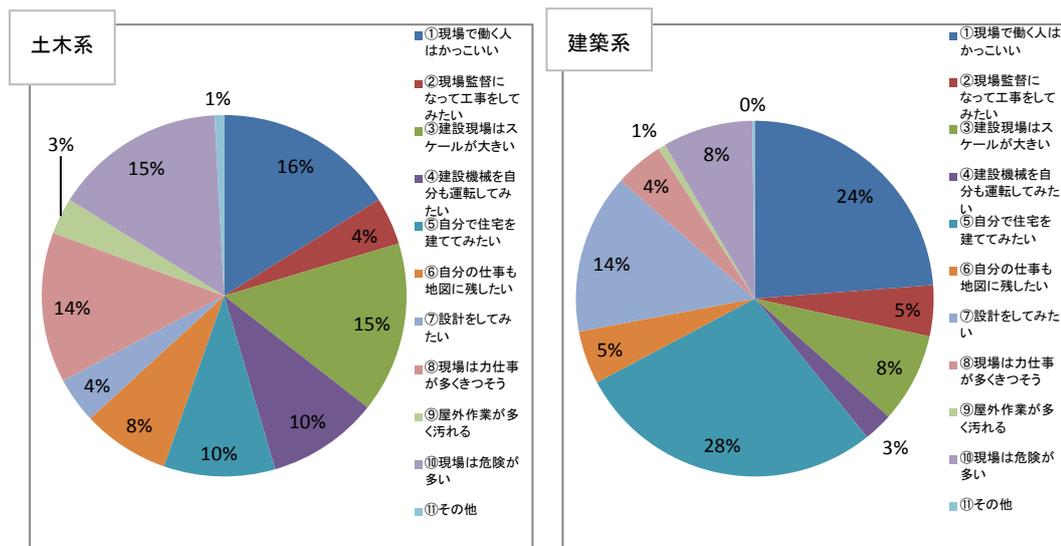


設問3 建設現場を見て感じること（回答数2つまで）（有効回答者数582名）

建設現場を見て感じることでは、土木系では「現場では働く人はかっこいい」が114名、「建設現場はスケールが大きい」と「現場は危険が多い」がともに108名、「現場は力仕事が多くきつそう」が95名となっており、上位4つの選択肢が15%前後の水準となった。ものづくりをすることへの憧れがあり、ダムやトンネルなどの大型工事をイメージする一方で、「きつい」「危険」と感じる生徒も同程度の割合となっている

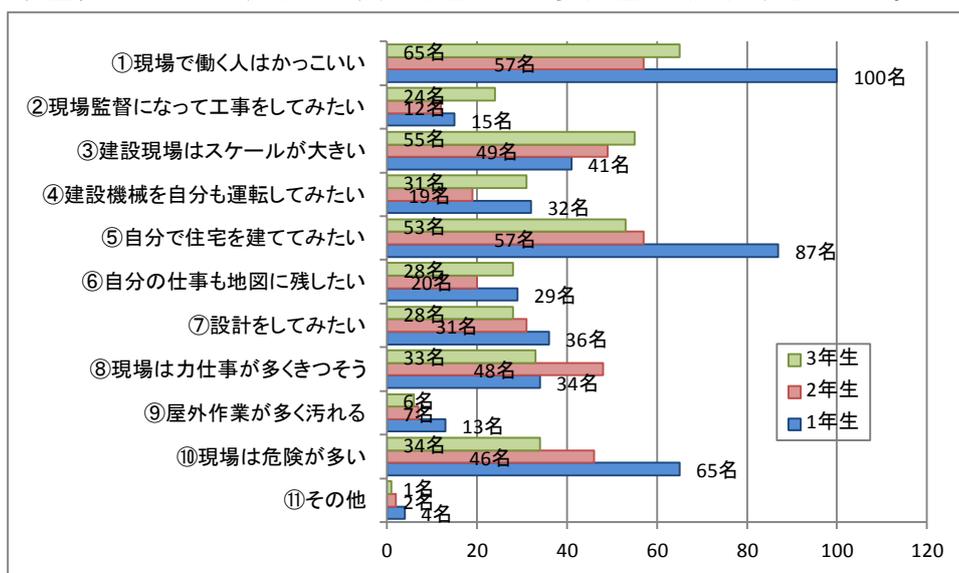
建築系では「自分で住宅を建ててみたい」が127名で28%と最も多く、「現場では働く人はかっこいい」が108名で24%となっており、「設計をしてみたい」は66名で14%となった。一番身近な建築現場として住宅現場で働く人たちをイメージしていることがわかる。

	土木系			建築系			1年		2年		3年		総計
	男	女	合計	男	女	合計	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
①現場で働く人はかっこいい	102名	12名	114名	70名	38名	108名	100名	21.9%	57名	16.4%	65名	18.2%	222名
②現場監督になって工事をしてみたい	29名	1名	30名	18名	3名	21名	15名	3.3%	12名	3.4%	24名	6.7%	51名
③建設現場はスケールが大きい	98名	10名	108名	29名	8名	37名	41名	9.0%	49名	14.1%	55名	15.4%	145名
④建設機械を自分も運転してみたい	67名	3名	70名	12名	0名	12名	32名	7.0%	19名	5.5%	31名	8.7%	82名
⑤自分で住宅を建ててみたい	67名	3名	70名	93名	34名	127名	87名	19.1%	57名	16.4%	53名	14.8%	197名
⑥自分の仕事も地図に残したい	50名	5名	55名	14名	8名	22名	29名	6.4%	20名	5.7%	28名	7.8%	77名
⑦設計をしてみたい	28名	1名	29名	44名	22名	66名	36名	7.9%	31名	8.9%	28名	7.8%	95名
⑧現場は力仕事が多くきつそう	84名	11名	95名	13名	7名	20名	34名	7.5%	48名	13.8%	33名	9.2%	115名
⑨屋外作業が多く汚れる	22名	1名	23名	3名	0名	3名	13名	2.9%	7名	2.0%	6名	1.7%	26名
⑩現場は危険が多い	96名	12名	108名	23名	14名	37名	65名	14.3%	46名	13.2%	34名	9.5%	145名
⑪その他	3名	3名	6名	1名	0名	1名	4名	0.9%	2名	0.6%	1名	0.3%	7名
総計	646名	62名	708名	320名	134名	454名	456名	100.0%	348名	100.0%	358名	100.0%	1162名



これを学年別で見ると、1年生は「現場で働く人はかっこいい」が100名で最も多く、「自分で住宅を建ててみたい」が87名、「現場は危険が多い」が65名となっている。

2・3年生では、現場見学会などで建設現場を見る機会も多くなり、専門的な知識も増えるためか、生徒それぞれに関心事が異なるといった多様性が出る結果となった。

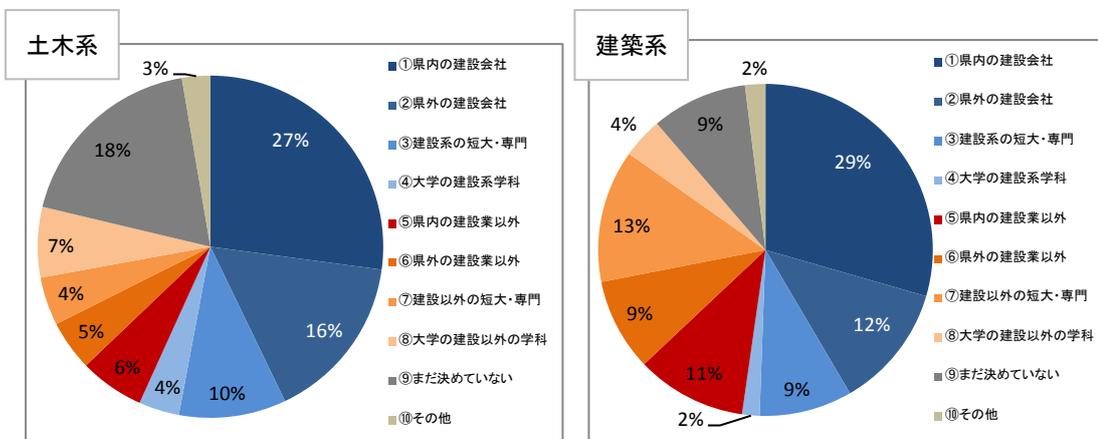


設問4 卒業後の進路について (回答数2つまで) (有効回答者数582名)

卒業後の進路では土木系・建築系ともに「県内の建設会社」が最も多く、土木系が143名で27%、建築系が105名で29%となっており、3割近い生徒が県内の建設会社に就職を希望している。「県外の建設会社」を含めると土木系・建築系ともに40%を超える生徒が建設会社に就職を希望している。さらに建設系の大学・短大・専門への進学を加えると5割以上が建設関係への進路を希望している結果である。

一方、建設業以外への就職は土木系が57名で11%、建築系が70名で20%であり、建設系以外の進学は土木系が59名で11%、建築系が60名で17%となっている。建設関係以外を希望している生徒は土木系が22%で建築系が37%となっており、建築系の生徒の方が建設業以外への就職・進学を希望している結果となっている。

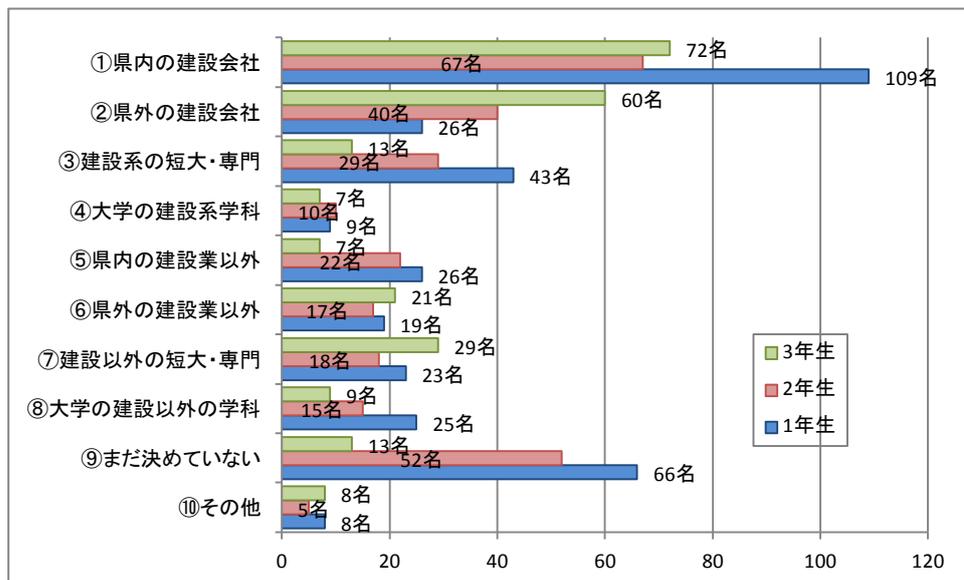
	土木系			建築系			1年		2年		3年		総計
	男	女	合計	男	女	合計							
①県内の建設会社	138名	5名	143名	77名	28名	105名	109名	30.8%	67名	24.4%	72名	30.1%	248名
②県外の建設会社	77名	6名	83名	27名	16名	43名	26名	7.3%	40名	14.5%	60名	25.1%	126名
③建設系の短大・専門	52名	1名	53名	26名	6名	32名	43名	12.1%	29名	10.5%	13名	5.4%	85名
④大学の建設系学科	18名	2名	20名	4名	2名	6名	9名	2.5%	10名	3.6%	7名	2.9%	26名
⑤県内の建設業以外	16名	16名	32名	25名	13名	38名	26名	7.3%	22名	8.0%	7名	2.9%	70名
⑥県外の建設業以外	20名	5名	25名	13名	19名	32名	19名	5.4%	17名	6.2%	21名	8.8%	57名
⑦建設以外の短大・専門	23名	1名	24名	39名	7名	46名	23名	6.5%	18名	6.5%	29名	12.1%	70名
⑧大学の建設以外の学科	30名	5名	35名	10名	4名	14名	25名	7.1%	15名	5.5%	9名	3.8%	49名
⑨まだ決めていない	84名	14名	98名	21名	12名	33名	66名	18.6%	52名	18.9%	13名	5.4%	131名
⑩その他	13名	1名	14名	7名	0名	7名	8名	2.3%	5名	1.8%	8名	3.3%	21名
総計	471名	56名	527名	249名	107名	356名	354名	100.0%	275名	100.0%	239名	100.0%	883名



卒業後の進路を学年別で見ると、1年生では「県内の建設会社」が109名で30.8%と最も多く、次いで「まだ決めていない」が66名で18.6%となっている。

2年生では1年生同様「県内の建設会社」が最も多く67名で24.4%となっており、次いで「まだ決めていない」が52名で18.9%となっている。3年生においても「県内の建設会社」が72名で30.1%と最も多い状況は変わらないが、次いで「県外の建設会社」で60名の25.1%となっている。3年生では上位2位を合わせると建設会社への就職を希望している生徒が5割以上となっている。

なお、3年生の第3位には「建設以外の短大・専門」となっており、進学では建設以外を希望する生徒の割合も増えている。



設問5 設問4で建設業以外と回答した理由（自由意見）

設問4で建設業以外への進路を回答した理由を見ると、最も多かった意見が「建設業以外にやりたいことがある（見つけた）」で29名、次いで「(学んでみて)自分に合わないと思った」が27名、「力仕事が多くきつそうである」が10名であった。

建設業に就職したくない理由(抜粋)	
他にやりたいことがある(見つけた)	29件
(学んでみて)自分に合わないと思った	27件
力仕事が多くきつそうだから	10件
しぼりこんでいない、決めていない	10件
製造業をしたいから	9件
建設業に魅力を感じないから	9件
求人がない	6件
安定していないから	5件
両親が反対している	5件

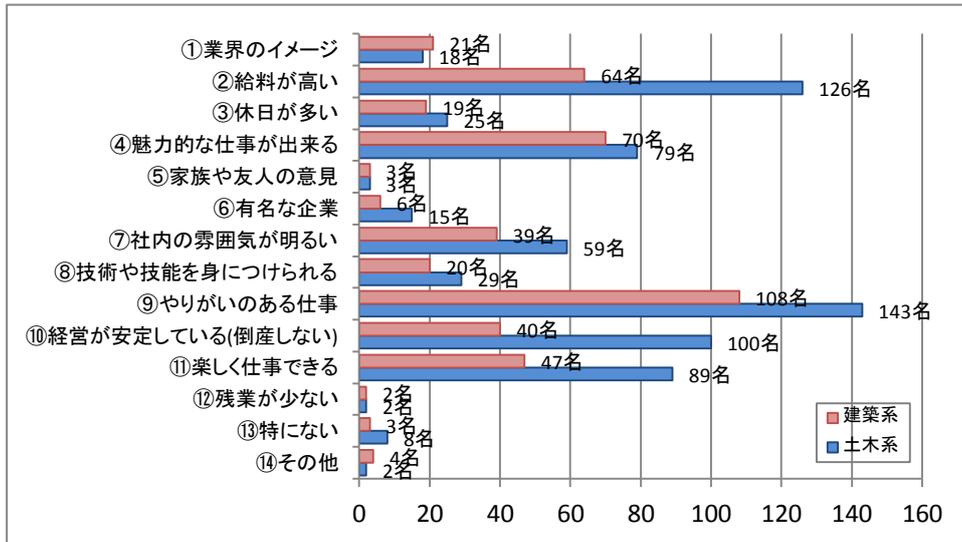
建設系の学科へ進学したものの、学んでみてイメージと違ったというケースがあると考えられる。その他に、「製造業に進みたい」、「建設業に魅力を感じない」、「両親に反対された」などの意見が出ている。

設問6 就職先を決めるうえで重要なもの（回答数2つまで）（有効回答者数582名）

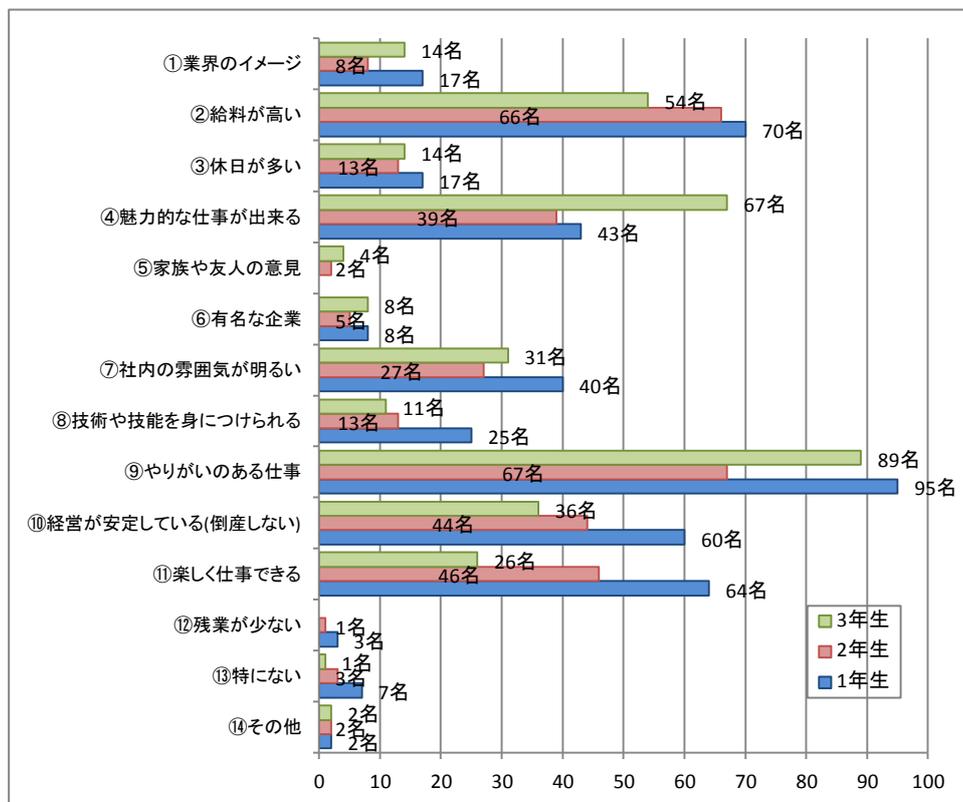
就職先を決めるうえで最も重要なことは、「やりがいのある仕事」が土木系143名、建築系108名といずれも最も多い。2番目以降は、土木系では「給料が高い」が126名、「経営が安定している」が100名と続き、建築系では「魅力的な仕事ができる」が70名、「給料が高い」が64名と続く。

土木系、建築系いずれにおいても、仕事のやりがいや内容が最も重視されており、その次が給与となる。企業のネームバリューや残業の少なさ、業界のイメージに対する優先順位は低く、若年者の確保においては、「やりがい」と「お金」が必要であることがわかる。

	土木系			建築系			1年		2年		3年		総計
	男	女	合計	男	女	合計							
①業界のイメージ	18名	0名	18名	19名	2名	21名	17名	3.8%	8名	2.4%	14名	3.9%	39名
②給料が高い	118名	8名	126名	52名	12名	64名	70名	15.5%	66名	19.6%	54名	15.1%	190名
③休みが多い	24名	1名	25名	16名	3名	19名	17名	3.8%	13名	3.9%	14名	3.9%	44名
④魅力的な仕事ができる	72名	7名	79名	42名	28名	70名	43名	9.5%	39名	11.6%	67名	18.8%	149名
⑤家族や友人の意見	3名	0名	3名	2名	1名	3名	0名	0.0%	2名	0.6%	4名	1.1%	6名
⑥有名な企業	15名	0名	15名	6名	0名	6名	8名	1.8%	5名	1.5%	8名	2.2%	21名
⑦社内の雰囲気明るい	53名	6名	59名	27名	12名	39名	40名	8.9%	27名	8.0%	31名	8.7%	98名
⑧技術や技能を身につけられる	26名	3名	29名	10名	10名	20名	25名	5.5%	13名	3.9%	11名	3.1%	49名
⑨やりがいのある仕事	131名	12名	143名	68名	40名	108名	95名	21.1%	67名	19.9%	89名	24.9%	251名
⑩経営が安定している(倒産しない)	93名	7名	100名	31名	9名	40名	60名	13.3%	44名	13.1%	36名	10.1%	140名
⑪楽しく仕事できる	72名	17名	89名	33名	14名	47名	64名	14.2%	46名	13.7%	26名	7.3%	136名
⑫残業が少ない	2名	0名	2名	1名	1名	2名	3名	0.7%	1名	0.3%	0名	0.0%	4名
⑬特になし	8名	0名	8名	3名	0名	3名	7名	1.6%	3名	0.9%	1名	0.3%	11名
⑭その他	1名	1名	2名	3名	1名	4名	2名	0.4%	2名	0.6%	2名	0.6%	6名
総計	636名	62名	698名	313名	133名	446名	451名	100.0%	336名	100.0%	357名	100.0%	1144名



学年別でも、全学年を通して「やりがいのある仕事」が最も多く、特に1年生と3年生にその傾向が強い。3年生では「魅力的な仕事ができる」が第2位となり、「給料が高い」が第3位となる。2年生では第2位以降が「給料が高い」、「楽しく仕事ができる」、「経営が安定している」となっている。



2. まとめ

富山県立高校建設系学科の生徒へのアンケート結果をまとめると、次のような実態が見えてくる。

- ① 進学理由を見ると、土木系では「将来の就職に役立つ」、建築系では「建設関係の仕事をしたかった」と考えている生徒が最も多く、卒業後の進路を考えて入学していることがわかる。

建築系では「建設関係の知識を習得できる」や「将来の就職に役立つ」といった意見の割合が高く、建設業界に興味がある生徒が多いことがうかがえるが、土木系では「何となく」「家から近い高校だった」の割合が高く、建設業に対するイメージがはっきりしないまま入学している生徒が多い。

- ② 建設業の魅力として、ものづくりの喜びや地図に残る仕事、住みやすい街づくりを挙げる生徒が多く、現場見学会や普段の生活で見る建設現場においても、現場で働く人たちをカッコいいと感じ、現場のスケールの大きさや自分でも家を建てたいとする意見が多かった。

建設関係について学ぶことで建設業に対する意識が高まり、現場に注目するようになることで建設業に魅力を感じた結果、過半数の生徒が就職・進学を含め建設関係を卒業後の進路として考えるようになったと考えられる。

- ③ 高校生が就職先を決める上で最も重要視しているのは「やりがいのある仕事ができる」ことで、次いで「給与が高い」となる。3番目として挙げられている「魅力的な仕事ができる」と「やりがいのある仕事ができる」を合わせると全体の68%を占め、仕事内容が就職先を選ぶ上で最も大切と考えている一方で、「給与が高い」ことも重要視されている。

若手技術者・技能者に対するアンケートでは、「建設業界に入職してくる若者に伝えたい事」で「ものづくりの喜びを味わえる」「やりがいのある仕事である」といった意見が多く、建設業には高校生が就職の際に求める仕事のやりがい・魅力があると言えるが、一方で「職場に対する不満」への回答には「給与が低い」が最も多く6割以上を占めており、今後、若年者を確保し育成していくためには仕事内容に見合った賃金の確保が不可欠であると言える。

